新女界

主幹　海老名彈正

要目

女子の修養　海老名彈正

隠れたる大罪　安井哲子

家庭に於ける修養　法學士 吉野作造

夫婦の愛情は如何にせば持續すべきや　海老名みや子

小供敎育の栞　元良よね子

種痘の話　醫學士 金子魁一

竹崎順子先生を憶ふ　平山訓子

女性の福音　海老名彈正

主筆　安井哲子

第壹卷第貳號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷第貳號

●目次

女子の修養　海老名彈正
隱れたる大罪　安井哲子

●思想

男女交際に就て　安井哲子
家庭に於ける修養　東京法科大學助教授法學士　吉野作造
女子教育に對する時代思想の變遷　鈴木文治

●家庭

夫婦の愛情は如何にせば持續すべきや　海老名みや子
小供教育の栞　元良よね子
種痘の話　醫學士　金子魁一
處女の役目　田村田鶴子

●問答

人事問答　▲家政問答

●文苑

花日記　野口せい子
屋外の半日　小山菊野
順子竹崎先生を憶ふ　平山訓子
春雨（短歌）　田澤藤郎

●講壇

女性の福音　海老名彈正

●彙報▲編輯だより

香油　大瓶　卅五錢　中瓶　廿五錢　小瓶　十七錢
白粉　大瓶　卅五錢　中瓶　二十錢　水製　廿五錢

千代田香油と白粉とは
廿世紀式の新香料を
配合して調製せる
ものなれば、夙に淑女
令孃間に愛用せられ
高評盛なり

東京馬喰町
山岸三之助
電話浪花三七九三

木下尚江新作

『小説 勞働』

近刊

東郷大將題字

報知新聞記者 熊田葦城著

●地之卷出來

●天之卷第五增刷出來

日本史蹟

全三冊

寫眞百六十餘箇挿入 舶來紙刷五百廿頁

正價金貳圓 特價壹圓六十錢

小包料拾貳錢

好評嘖々五版出來

世界的不朽の大傑作

ポーランド之大文豪

シエンキエツチ作

OUO VADIS

坪內文學博士序

松本雲舟譯

何處ニ往ク

原名クオワヂス

全壹冊

總クロース 大形美裝

函入紙類五百頁

定價壹圓廿錢

小包料拾貳錢

▲萬朝「流石は大文豪の作ちつぽけなる自然主義小説の比にあらず」▲報知「文辭華麗製本優美學生家庭の讀物として極めて健全有益なる新刊也▲大阪毎日「羅馬滅亡の狀態混亂せる修羅の巷の慘絶悲壯なる光景を以てす局面の波瀾曲折に富める所白き讀物也▲太陽「歐米文壇を風靡したる名篇文辭平明流暢にして原意を傳へたり▲新人「原書は近世文壇の珍と稱せらる、傑作にして本邦に於ては實に故人高山樗牛が愛讀の書たりき而して隆々たる樗牛の文名を慕ふ天下の書生は樗牛愛讀の書たりとの理由を以て爭ふて之を繙き恰も勃興せる宗教的氣運に乘じたりしかば熱烈敬虔なる宗教精神が横溢せる此書はいたく我讀書界の歡迎をうけて丸善店頭其英譯書は常に品切れの好況を呈したりき▲基督教世界「之を聖書の裏面史と見るを得べく又以て好箇の堅信修德の書となすを得べし教勢日に順潮にして信徒漸く柔弱に慣れんとする今日此の活宗教の活劇史を得余輩何の辭を以て之を歡迎すべきやを知らず謹んで譯者の勞を謝し江湖の愛讀を推奬すること爾り

東京本郷弓町 昭文堂 發行

樺山大將題字

芳賀博士序

報知新聞記者 西村文則著

再版

●人格修養之良師友

●青年志士之好典型

橋本左內

全壹冊

大形美本 眞蹟入

正價六十五錢

送料八錢

木下尚江作

『小説 墓場』二版

『小説 乞食』五版

定價各卌五錢

送料各六錢

●信者の實業家は何故に振はざるか

信者實業家にして世に聞ゆる者小林富次郎君の外一人もなきは恐らくは左の理由に基くものならん

一、信者は餘りに理想高きに過ぎ實業を以て身を立つるを潔とせず將來高尚の業務に轉ぜんとする中腰者の多き事

二、信者同志にても信者の實業家を信任せざる傾あり從て同一の品を同價格にて却て未信者の店より購入する者の尠からざる事

三、信者は酒煙草の如きは利益多きも其の販賣を避けざる可からず加ふるに得意に對しよく忠實懇篤ならん事を期するの結果利益は他同業者の半にも達せざる事

四、教會慈善團等への寄附は一般信者よりも多分に要求せらるゝが故に他同業者に比して二重の營業税を負擔するに等しき事

書生パン店「中村屋」の興廢は擧て諸兄姉の同情如何にあり

喰麺麭

和洋菓子

食料品

食器類

本郷森川町一番地
中村屋本店
電話下谷二一七八番

新宿電車終點
中村屋支店
電話番町一八七八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

定價表及目錄等ハ御一報次第御送附可仕候

東京市下谷區中三崎町五十七番地

金聲社風琴製造所

（振替貯金一一八八五番）

營業項目

●諸會社定欵、簿記、用箋類

●名刺、廣告、引札類

●寫眞版、木版、電氣版類

●醫家病院用印刷物及附屬品

●此他如何なる緻密の物にても迅速且鮮明に印刷仕候

●地方及び諸教會よりの注文は特別御便宜に取扱可申候

東京市本郷區弓町一ノ一

忠文堂印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲百年祭紀念　内外出版協會編

繪入

リンコルン一代記

最近刊

總クロス製美本　定價金七拾錢郵稅六錢

◎肖像及び挿畫二十二面入

天才者と普通人を問はず、世界萬人の學ぶべき人物としてリンコルンに優る偉人は在らず。彼は實に東西今古に傑出せる**理想的偉人**なり。今年は米國に於て氏の百年祭行はる、之が紀念として本會は此書を出版せり。舊日本に於ける一種の國民讀本としては、**太閤記**社會の各階級に讀まれたりき、本書の如き**當代日本**に於ける**家庭讀本**として**少年讀本**として將た**國民讀本**として遍く讀まるべきものなり。**本書全卷小說的に最も興味饒かに氏の一代を詳記し、繪入ふりがな附として繙讀に愉快にして容易にせり。**裝釘亦堅美以て書架を飾るに足る。

百島冷泉譯編

通俗文庫

每編讀切

『通俗文庫は世界で有名な善い書物を選んで其の梗概を極めて平易に極めて面白く譯述したものであります』。

(第一編)　バンヤンの**天路歷程**　BUNYAN'S PILGRIM'S PROGRESS　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

(第二編)　ストウ夫人の**奴隸トム**　STOWE'S UNCLE TOM'S CABIN　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

(第三編)　**聖書物語**　THE BIBLE STORIES　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

(第四編)　アンデルゼンお伽話**赤靴物語**　ANDERSEN'S FAIRY TALES　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

(第五編)　トルストイの**二人巡禮**　TOLSTOY'S TWO PILGRIMS　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

(第六編)　ロビンソン**漂流記**　ROBINSON CRUSOE　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

(第七編)　**イソップ物語**　AESOP'S FABLES　(定價金貳拾錢 郵稅二錢)

版元　東京巣鴨郵便區染井傳中山縣邸内　振替貯金口座東京第三百五十五番　**内外出版協會**

第壹巻第貳號

女子の修養

海老名彈正

一

人の過失はその短所より來るにあらずして、却つてその長所に原因するもの少くない。短所は始めより謙遜して注意するがゆゑに、從つて過失もでかさないのであるが、長所は誰れも得意であつて、危險をもあへてするが故に、過失を作り易い。得意になつて油斷するほど大敵なるはない。假令油斷はせずとも、またその長所に耽つて常識の判斷を過つこともある。女子は天性その感情に長ずる所がある。此感情の濃かにして厚きが女子の美しき性質である。此性質は眞に賞讃すべき價値を有する。しかもこゝが女子の最も注意すべきところ、餘りに情もろくして姑息の處置をなすもあり、餘りに情厚くして優柔の行に陷るもあり、又餘りに情深くして死をも決し、男子の不名譽なる犧牲たらんとするもある。河童の川流れといふ諺もあれば、最も注意を要する。しかも女子にして感情の淺薄なるはよしや過失はないとするも、取るに足らない、故に過失を免れんが爲に感情を殺して冷淡になれとはいはぬ。

二

さらば如何にして女子はその陷り易き過失より脱するを得べきか。良心の明をあきらかにするを肝要と思ふ。良心の明をあきらかにするといふは、正邪の念、善惡の義を明確にすることである。固より物事に觸れて常識を磨くこと必要ではあるが、善惡正邪の判斷が明白に立つ稽古をなさないと、假令利口にはなるとも、君子とはなれない。善惡邪正の判斷力を養成することは別に六ヶ敷學問を要しない。事にあたり物

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に觸れて是非の判斷を下し、之を先覺に尋ねたゞせばよい。

三

良心の明を磨くと同時に、その判決を實行する意志鍛煉の稽古をなさねばならぬ。此稽古は意志を强堅ならしむると同時に、亦良心の明を磨くことゝもなる。感情は火力である、水力である、蒸氣力である、電氣力である。之を善用するには良心の明に照らして、判斷するを要する。しかして亦之を決行する權威がなければならぬ。權威は良心に基ける意志である。明確なる智能の判斷と强堅なる意志の決行とは比較的女子の短所であるから、こゝに修養を加うるが、取も直さず、その美德を輝かす、女子の取るべき道である。情の濃厚なるを欺く要はない。

四

然るに女子としてその天來の美德を失はず、男子にも劣らぬ明確の判斷力と勇猛の決行力とを修養せしむるには、世界に比較なきキリストの人格を通して活ける宇宙の意志なる神と結ばねばならぬ。女子は此點に於て先天的に宗教上の天才である。女子はその濃厚なる愛情をそゝぎ盡して、人格の神に熱中し、信頼し、從順なるを得る。キリストの顏に輝ける神

の光明は女子の最も善なる美しき愛情を遺憾なく喚び起す神力を有する。是れ正しく女子の安心立命ではなからうか。かくなれば女子を動かさんと欲するものは、先づ神を動かす程のものを持たなければならぬ。言ひ換うれば神と行動を同うするものでなければ、かゝる女子を動すことは出來ぬ。自己以外の人格に合同一致する性格を有するは女子にしくものはない。女子は此信頼の美質を善用して、永遠の意志と結び付くときは、偉人も其志を奪ふべからざる强健の意志をかちうることが出來る。

五

キリストの人格に迸り來る神の愛情ほど淸らかなるはない女子は此愛なる神の最も美はしき性格を有し居るものなれば、之を自覺して、神と親子の深き美はしき關係に入るの曉、唯その天來の愛情を深からしめ、淸らかならしめ、濃かならしむるのみならず、更に亦之に加へて、神の明と能とを體して圓滿なる人となり、家庭に於て社會に於て天使たるを得んは疑ふべからず。その子女は永久その母を崇拜して忘れざるべし。その母はとこしへにその子女の、又その良人の守護神たるを得ん。かくなれば我同胞亦幸に大なる異象を見るであろう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天空に一婦人あらはる、彼は輝ける日を衣とし、月をその足の下にふみ、首に十二の星を戴き、しかして美はしき人の子を抱く。

女子の光榮もこゝに至つて遺憾なく輝いて居る。

隠れたる大罪

安井哲子

逆上せ易い時候の故か、何と多くの殺害事件を日々新聞で見る事でありませう。親は子を殺し、子は親を傷け、弟子は其師を刺す等、有りとあらゆる罪悪が、有りとあらゆる方面に現はれつゝある此社會には、之れでも道徳といふ者が何處かにあるのであらうかと疑はしむる程であります。併殺人の大罪たる事は誰にでも解りますが、之れよりも尚一層恐るべき罪のある事を知らぬ人があります。それは即他人を精神的に殺す事であります。

其事情の如何に關せず、妄りに他人の生命を奪ふ事は實に大罪には違ひありませんが、是等の人には直に法律に依つて公衆の前に公平なる裁判を受け、相當の重刑に處せられ、世人から忌み厭はるゝの罰を受けます。然るに卑劣陰險にして、陽に善人を裝ひ、陰に他人を中傷して、其人の名譽を傷け、世間の信用を失はしめ、恐るべき影響を廣く傳播して、他人の精神に苦痛と煩悶とを與ふる者は、道徳上の罪としては實に殺人罪にも劣らぬ重罪であります。世には實に此苦痛に堪えずして、終に自殺を圖り、又は發狂して終身不幸に陥る者が少くはありません。而も其罪人は法律上の罰を受くる事もなく、冷然として得意の生活を續くるに至つては、被害者よりも寧加害者の爲めに涙を注がざるを得ません。中傷は極度の卑劣手段であります。他人に與ふる害は云ふまでもなく、其人自身の精神上に及ぼす害は實に大なる者であります。而も其實は自他二人の間に止まらず、之れを信ずる者をして無辜の人を害せしめますから、何の關係もない許多の人々にまで不知不識罪を犯させます。實に罪深きは卑劣陰險なる人々であります。

○○○○○○○○○○○○○○○○○

眞の競爭は實力の競爭でなければなりません。例へば運動會の競爭でも、其技の勝れた者は敵でも味方でも公平に賞讃すべきであります。賞品を得んが爲め、又は一等の名譽を受けんが爲めに卑劣手段を施して勝を占めんとするが如きは、最も品性の低き、下劣なる者であつて、若し競爭をして眞の價値がある樣にしやうとするならば、かゝる人々をば競技者中より取り除くべきであります。世の中に於て生存競爭するのも同樣で、皆互に其力と其技とに依つて、潔く競爭すべきで

あります。況して自分と同じ興味を有する人、同じ職業に從事する者に對しては、互に他人の新しい工夫と、勝れたる伎倆とを觀察しあつて、互に相樂しみ、相奬勵しあふべき筈ではありませんか。例ば盆栽の好きな人が他人の盆栽を見て、其優美巧妙に栽培せられた植物を賞翫するのは、自分が同じ興味を有して居るからであります。然るに自分の植物が其人のよりも劣るからとて、實際美と感じた者を惡し樣に批評する事は出來ますまい。若假りに致したとするならば、其人は美的思想のない人で盆栽家とはいはれぬ筈であります。併世には之れに類した例が少くはありません。他人を中傷して己れの性格を引き下げ、陰險卑劣の人として人々の不信用を招く事を知らず、一時の淺薄なる思想に驅られて、他人の事業又は發達を妨げんとする者があります。何といふ愚でありませう。

世に處する唯一の方法は唯公明正大に其身を處するにあります。若友人に快からざる事があつたならば、直に其人に向つて自分の意見を話すがよろしい。陰に之れを傷くるのは卑劣であります。他人に疑はしい行爲があると思はゞ直接に其人に問ふべきである、第三者に之れを探ぐらするなどは正しい人の爲すべき行爲ではありません。

他人の財産を横領せんとて其人を殺さば、己れも亦殺されて、其目的とした財産を得る事が出來ぬのは明かな事であります。之れと同樣に他人の名譽を傷けんとすれば、己れの名譽をも失ひ、他人の精神を苦しむれば、己れの精神をも苦しめねばならぬのは自然の道理であります。寧互に親しみ相助けて、財産の一部を分ち、互の名譽を保ち、互の平和と幸福とを圖るのが勝つて居ます。吾等の如くに、神を信ずる者は、かゝる陰險なる行爲を爲す事を恐るゝのみならず、かゝる卑劣なる思想を有する事すらも恥と考ふる者であります。若傷けられたる者が吾等の如くに神を恐るゝ者であるならば、己れの受けた害の爲めに苦悶する事は比較的少く、却つてかゝる恐るべき行爲を敢へて爲した加害者の爲めに泣きませう。肉體的又は精神的に他人を傷けて、不正の利を得んとし、又は一時其利を樂しみ得ても、忽ちにして己れに禍の廻り來る因果應報の實例は、罪惡の多い此世の中に於てさへも明に示されて居るではありませんか。何が故に吾等は誠意他人を愛し、他人を助けて罪惡を救ひ、自他の爲めに此社會を善良幸福にしやうと勉めぬのでありませうか。之れが即自己を幸福にする最も確な且最も手近い方法であるではありませんか。

思想

男女の交際に就いて

安井哲子

近來男女の交際が自由になつて來た爲めか、種々の弊害が起るのを實驗します。此際父母教師等の青年の保護者と、青年の男女自身とは、能く注意せねば實に憂ふべき結果を來すでありませう。今之れに就いて感じた事を其まゝ列記して見ませう。

第一　男女交際其者は直ちに罪でない事は明であります。故に監督者は青年の男女が互に知り合ひだからとて、直に彼等を疑ひ、彼等自身も亦大罪でも犯して居る樣に、人目を避け、秘密でなければ互に交る事が出來ぬ樣に思ふのは非常に危險で、此誤りから終には恐るべき結果を來す樣になります

第二　男女の交りは決して罪ではないが、紳士たり淑女たる者は能く其身を愼み一擧一動を敢てせぬ爲めに、常に眞面目なる態度を取つて交らねばなりません。正しい家庭に育つた青年男女は、父母監督者の許しなしに輕々しく互に交際する事は固より愼むべき筈であります。假令親族の間でも、自己又は先方の親、若くは他の年長者の面前を避けて、自由に相交るが如きは愼しむべき事であります。英國などでは家族同志でさへも、弟が姉の寢室に入らず、又主婦が男子の泊り客を其寢室に案内せぬ等中々嚴格であります。曾て私が舊師の家に、泊りに行つて居りました時、其師が病氣になりましたが、師の外家族が皆男子でありました爲めに、其寢室に自由に立入つて見舞ふ者は他人の私だけでありました。そこで朝食堂で會合すると年若き甥などは私に自身の伯母樣の病氣を尋ねるのが常でした。私は其時實に奇妙な感が致しましたが其意味を味へば大に學ぶべきところがありませう。

第三　年若き女子が一人で、妄りに男子を訪問するのは避くべき事であります。況して下宿屋に男子を訪問したり、男子を主とした集合に、年長女子の保護者なくして自分一人行

くなどといふ事は實に無思慮極る事であります。

第四　會合すべからざる場處に於て、男女が自由に會合するのは不謹愼の最も甚しい者であります。電車などで通學する男女の學生が、之れを利用して相會合したといふ事實を聞きましたが、苟も高等女學校に通學し得るほどの家庭に育つた女子が、かゝる不謹愼なる行爲を敢てするといふ事がありませうか。假令親や敎師に秘する行爲の正邪や、親の名や學校の名を汚す事の善惡を論せぬとしても、かゝる不謹愼な秘密交際法に依つて、眞の愉快を感じ得られませうか。眞面目な女子はかゝる事を好む男子に交るのを厭ふ筈であり、正しき男子はかゝる不眞面目な女子を好まぬ筈であります。故に其選ぶ交際の方法、己れに對する態度に依つて、眞に交る價のある人か否かゞ解らなくてはなりません。

第五　一面識もない靑年の男子が女子に書面を送るやうな事は實に無禮であります。之れに對して年若き女子が輕々しく返事を認むる必要を見ません。宜しく其保護管督を受けて居る人に托して適當に處置して貰ひ自分自身之に關するものではありません。之れに依つて其身を誤つた例は多くあります。然るに年若き女子は往々之れを親切なる行爲と誤解し、淑女らしくもない行爲を敢てするのは誠に悲しむべき事であります。又假令知己の間柄でも男女互に親しきに過ぐる言葉を用ふるは不作法であります。私の知つて居る婦人は之れが爲めに男子の誤解を受けて非常に苦しんだ者があります。

其他男女の交際に就て特別なる場合を擧ぐれば、實に數多く御座いませうが、要するに男女互の交際は、其既婚者たると未婚者たるとを問はず、能く謹愼の態度を以てし、紳士として、又淑女として有るまじき無思慮不眞面目な方法に依つて互に交際する樣な事は深く避けねばなりません。保護者を頑固として笑ふよりも、寧自分自身の面目を汚さぬ樣に、先自分の頭の上にある管督者に相談すべきであります。學問して智識を得、物の道理が解つても、之れに依つて自分自身を制裁する事が出來ず、下流社會の婦人にも劣るべき行爲をして耻づる事のないのは、實に悲しむべき事で、吾々は婦人たる威嚴を保つ爲めに、此點にはお互に十分注意せねばならぬと思ひます。

家庭に於ける修養

吉野作造

一

予は平素、如何にもして心から滿足なる些の遺憾なき生活。を送りたいと思つて居る。

併し之は中々困難の事であつて、動もすれば種々の誘惑に

陷り、心ならずも幾多の罪を重ねて、悔恨の情に堪ねぬことが多い。然るに近頃に至りて、更に、自分一人の心を滿足することは比較的に容易の業であるけれども、自分も滿足し、加之周圍の多くの人々をも滿足せしむるといふ事は、猶一層の難事であるといふこと。之に附け加へて、所謂自身一己の滿足といふことのみでは、實は眞の滿足ではない、自身も安んじ他人も亦安んずるのを見なければ、吾人の心中に眞の滿足を得るものでないと云ふこと。更にまた、廣く他人の滿足を以て自分の滿足とするを得るに到らざれば、吾人々格の修養は完うせられたるものと云ふことを得ないと云ふことを、最も痛切に感じた。而して、予が斯等のことを切實に感ずるに至つたのは、實に予の家庭生活の賜物である。換言すれば予が家庭の主となり、人の夫となり、人の父となりたる事が實に予をして如上の考を深からしめたのである。

二

自分一身の滿足を得ると云ふことも實は中々容易の事ではない。元來吾人は完全なる人格を具へて居る者でないから、吾人の現狀には到底自ら滿足の意を表することは固より出來ない、只日々修養努力して、幾分たりとも人格を高め行くことの出來ることに於て、僅に滿足するを得るのみである。而かも、なほ時々思はず知らざるの間に、邪路に迷ひ込み痛恨の苦みを嘗むることも少くない。但し、世上には、理想もなく品格の貴むべき所以をも知らず、功名富貴の空望を懷き、適ま之に到達して一時大なる滿足を感じて居る人もあり、又は之等の空望を充し得ずして徒らに煩悶する人もあるが、此種の浮雲の如き虛榮を追求する人々は、固より我黨の士に非ざるを以て論外に置く。苟くも直しきもの、眞なるもの、永遠なるものに憧憬がれて、吾人の人格をいと高くいと潔き處に安定せんと欲する者は、皆吾人と同感にして、現狀に滿足もしないが、又必しも失望もせず、日に夜に發奮して、修養練磨の功を積むことだらうと思ふ。修養練磨と一口にいへば容易のやうだが、其目的を達することは實に中々六かしい。が併し、兎に角に、少くとも日々修養に努力することの上に心を安んずることは、出來る筈である。

三

故に、自分一身だけ、遺憾なき生活を送ることは、實は中々困難ではあるけれども、割合に此境涯には入り易いと思ふ併し乍ら、つら〳〵省みるに、自分一身だけ滿足に其日々を過せば、夫れで吾人の心は全く眞底から遺憾の念を一掃することが出來るものだらうか。古の聖賢は、俯仰天地に耻ぢず、何の憂うる所あらんと敎へたが、自分の心に一點の疚しき所なければ、夫れで自分は滿足したと云ふことが出來や

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うか。見よ。世間には、吾人の同胞にして種々の惱みに沈んで居る者頗る多いではないか。否、現に吾人の友人のうちに苦み悲める者は無いか。否々、吾人の親族……親子夫婦兄弟……のうちに煩悶に可憐の思を碎きつゝあるものは無いか。

斯くても吾人は自ら顧みて、其心中に些の暗黒點がないとて冷然として居ることが出來やうか。曰く然らず。吾人の良心は決して斯く冷然として安んずることを得るものでは無い。

若し、吾人の親子夫婦兄弟の者にして、深き苦痛に陷つてゐる者があれば、吾人は進んで之を慰め其苦痛を取り除いてやらねば、眞に滿足するを得るものでない。若し友人のうちに、同じく悲慘の境遇に陷れる者があれば、何とかして之を救ひ出す工夫があるまいかと苦心するのは、吾人の人情ではないか。而して、親族や友人に對する這般の念は、更に之を擴充して世間の同胞一般に推し及ぼして考ふるときに、吾人は到底、自分一身の滿足のみを以て安ずるを得る者でないといふ事を思はざるを得ない。之と同時に、吾人はまた何となく、吾人自身の滿足を求むるのは勿論であるが、廣く他人をして滿足なる生活を送らしむることが、實に吾人の此世に於ける義務責任の一であるやうな感がする。

四

一體予は斯んな理窟は疾うの昔から知つて居つた。即ち『自分も滿足すべし、他人も亦滿足せしむべし』といふ事は、理窟としては予に取つて極めて陳腐である。恐く讀者諸子に取つても陳腐であらう。併し、顧みて此陳腐なる理窟が、從來常に吾人の血となり肉となつて居つたかどうかは頗る疑しい。想ふに、多くの讀者諸子と雖も。此陳腐なる理窟を切實に肝銘して居る方は、少からうと考へる。何となれば、若し眞に此理窟を體得して居る者ならば、世上到る處に存在する一切の惱み悶ね苦み痛みに對して、吾人は無限の同情を表し他人の憂を以て眞に自分の憂の如く感じて、夫々の手段を執るべき筈であるのに、不幸にして吾人多數の云爲は、之に反するのが多いからである。予は大膽に告白するが、從來（悲いかな今とても大差ないが）予は、世上幾多の酸鼻なる不幸に對し、之には同情すべきもの、出來る丈の助を爲すべきものと云ふ道理は知つて居つたけれども、眞に自分自身の不幸と同じやうに、ゐ堪ゐられない程の思を傾けたことが無い。甚しきに至つては、親しき友人の不幸に對しても、心から泣いて同情する事も出來なかつた。况んや、之を慰め之を救はでは吾が心已む能はざるが如き熱心は、左程起らなかつた。道理は道理、腹は腹と別々であつた。

予は屢々友人と衝突した事がある。又根もない誤解を受けた事もある。而して、何時でも、自分さへ正しければ心配は無いと安心して居つた。先きの人が、果して自分と同じ様に、安心するを得たかどうかは必しも意に介しなか

つた。又自分だけの安心と満足とを得る爲めに、友人と絶交せんとした事もあつた。氣に喰はぬ人物の居るを理由として、教會に出席するを拒んだ事もあつた。其結果として他の多くの人が、如何ばかり自分のことにつきて心配して與るゝかは、毫も意に介せなかつた。

斯く自分の過去半生の行動を顧みると、自分だけ満足すれば宜いと思つた事、又自分だけの満足を求むる爲めに、他人の事には無頓着に我儘の振舞をした事、實に多い。而かも、他人の不幸を我不幸の如くに痛切の同情を寄せた經驗は殆んど無い。今更悔い且つ恥ぢ入る次第である。左れば予の從來の行狀は、兼々知りぬいて居る理窟と毫も一致しない。云はゞ甚しき矛盾である。然るにも拘らず、予は實際當時此矛盾を苦痛と感じなかつた。否此矛盾を自覺しなかつた。然るに此矛盾の自覺は、家庭を持つに至つて俄然として起つた。家庭の人となりて見て、始めて、自分だけ満足したのでは到底胸が收らないといふ實驗をした。自分は勿論であるが、之と同時に、妻や子供も共々満足するに非れば、予は到底完全なる満足を得たるものでないといふ經驗をしたのである。

五

今更申すまでもなく、人間は社會的生活を爲し行くものであるから、自分一人だけ満足を得れば他人の事は顧みるの必要は無いといふ態度を、各人が取るやうになつては、世の中は治まらない。故に吾人は、自己の爲にもはかり、又他人の爲にもはかるべきであることは、明白の道理である。併し乍ら、眞理は之れだけで終らない。吾人は更に一歩を進めて、他人の満足するのを見なければ吾が心亦已む能はずといふ情念を有せなければならぬ。何うしても他人の爲めに大にはからずしては居られないといふ情感を有つやうにならねばならぬと思ふ。然れども、吾人は事實に於て斯かる高潔な精神を有つて居るかといへば、悲しいかな否と答へねばならぬ、吾人は之れまで他人の爲めにはかり、他人の爲めに一臂の勞をいたすべき場合に遭遇して、常に盡す丈のことは十分盡したが、イザ其腹はと顧みると、實は盡さずしては居られないと云ふ已むに已まれぬ情念より起つたのではなくして、只斯くすべき筈であるといふ道理に基くといふ次第であつた。予の未だ幼少の頃は、固より之等の點に關して何の考も浮ばなかつたが、段々年の進むと共に理性も幾分か發達し、以上の道理も分つて來たが、斯く理性の進むに從つて情念の缺陷は著しく感ぜられるので、衷心甚だ苦痛に堪へなかつた何とかして斯う云ふ感情を養ひたいと思ふけれども、どうしても起らないから致方が無いといふ有樣であつた。故に他人から見れば、相應に人の爲めに盡して居ると感謝されても、心中には實に言ふ能はざる苦痛があつたのである。

然るに、此の多年乏しきを感じて居つた情感は、家庭を持つに至つて俄然として起つた。殊に近頃に至つて強く此感情を自覺するに至つた。とは何ういふ次第かといふに、從來は、他人の喜憂を以て自己の喜憂とするといふ感情は、自分の親達に對してさへ、明白に起らなかつたが、此感は、自分の子供に對しては自ら起らざるを得なかつた。初めは餘り明了な自覺では無かつたけれども、實は、予は子供の喜ぶのを以て自己の無上の喜びとし、日夕如

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何にして彼等を喜ばしめんかに苦心して居つたのである。偶々子供等が病氣にでもなるとか、其他何か不滿な事があれば、一所懸命に其苦みを除いてやらうとする。予の子供等は未だ幼少だから、品行の事などに就ては、大した心配はないが、若し年頃になつた子供等が、放蕩無頼にして、世間に對して迷惑を掛けて居るといふやうな場合があつたら、何んなに其親達が心配する事かと想ひやられる。斯くして、他人を滿足せしめでは已まないといふ感情は、世間一般に對して廣く起らぬとしても、少くとも自分の子女に對しては起らざるを得ない。之は獨り子女に對してのみでは無い、其妻に對しても同樣である。假りに予が婦人であつたとすれば、其夫に對して亦必ず起るべきである。

六

子供に對する場合と、夫又は妻に對する場合とは、少しく相違の點がある。予等の經驗する所に依れば、夫婦間に於ては、固より相互の滿足を以て其滿足とし、一方の不滿足で居るのに他方が冷然晏如として居る事の出來ぬには相違ないが、猶其外にも互に求むるといふ念がある。即ち相手を滿足さしてやらうと云ふ考と幷んで、相手からも滿足さして貰はうといふ要求の念が挿入して來るやうだ。然るに、親子間に在ては、此要求の念は殆んど無い。ありてもそは極めて微弱であるのみならず、假令子供が其要求を充して呉れなくとも、親に大なる不滿はない。親達は只子供が喜んで滿足して呉れさへすれば宜しいのである。故に大多數の場合に於ては、親子間に在ては子供も滿足し、親達も滿足し其間頗る平隱圓滿であつて、常に無上の淨樂境である。然るに、夫婦間に於ては必ずしも左樣はいかぬ。其間お互に求むる所がある。求むる所が充されねば、多少の不平は起ることもあらう。相互に滿足さしてやらう喜ばしてやらうとは思つて居るけれども、時として求むる所意の如くならざる結果として、洋々たる春の海に多少波瀾の起伏することも無いではない。若し不幸にして斯んな事が起れば、吾人は實に何とも云へぬ悲痛の苦みを經驗するものであつて、結局此波瀾を收めて元の平穩に回さでは、到底滿足安心の出來ぬものである。

一體吾人は、夫婦や子供といふのみに限らず、何人に對しても、之と接觸する毎に、滿足さしてやりたいといふ考は多少は必ず起る。之と同時に、互に相求むるの念も亦必ず起る。而して、此場合に、若し自分の求むる所が充されずして、不平不滿の情が起り、相對する他人との間に、多少の波瀾が起つても、波瀾に伴ふ多少の苦痛は心に感ずるけれども、併し元の通り平和の關係に恢復する迄は堪へられぬといふやうの感は起らない。起つてもそは甚だ微弱である。然るに夫婦の間では、互に和するに至らざれば、到底堪へられないものである。

七

斯くて予はつく〲感じた。妻子を滿足せしめたいといふ心持ち。若し妻子が十分に滿足するを得なかつたならば、飽くまで努力して結局滿足せしめずは已まれないといふ心持。

之れが實に予の從來欠く所であつた。此情感を今や實に家族に對して有することを得た。家族といふ狹い範圍に限られて起つたものであるけれども、此情感は最早一度予の經驗したる所である。食つて其味を試み了したものである。從て既に予の血肉の一部となつて居る所のものである。然らば此情感を更に擴充して、之を親しき友人の間に及ぼし、更にまた、多くの同胞に及ずことは、困難であるまい。予は斯くして始めて、多くの先輩宗敎家が熱血を振つて、同胞の爲めに盡力するの情念を眞に味ふを得た。多くの聖賢が實に見も知らぬ世界同胞の爲めと稱して、其身命を捧ぐるの精神に同情するを得た。吾が主基督が、かの廣大無邊の慈悲恩愛を垂れて、救世の大業に奔走し給ふた大赤誠を察することを得た。斯く考ふる時は、家庭に於て予等の得べき夫の小さき情感は、實は基督の大精神の一端にして、之を助長し之を涵養するときは、實に天地の至誠と一なるを得る者なりと謂はざるを得ぬ。

八

終りに予は一言を附加する、他人を滿足せしむるといふ事は、只他人の要求に應ずるといふことでは無い子供が菓子を欲しいと言ふ時直に菓子を與へ、妻が衣物を欲しいと言ふ時、直に借金までして之を買つてやるが如きは、他を滿足せしむる最捷徑の方法ではあるけれども、斯くては自分の良心が滿足せず、又妻子自身の爲でも無い。他人を滿足せしめんとして、自分の良心を沒却しては不可ぬ。基督は決して世俗と迎合しなかつた。相手が考を異にして居る場合には至誠を以て大に奮闘せねばならぬ。戰ふは相手を苦める爲めに非ずして、却て最終の大滿足を與へんが爲めである。此理により、吾人は他人を滿足せしむると云ふ事は、決して容易の事でないと云ふ事を知らねばならぬ。容易でないからとて斷念することは出來ない。家庭に於ては斷念するを許さぬ。飽くまで努力奮闘して、終局の滿足を得しめねば巳まぬ。是れ實に家庭生活の福音である。

苟くも家庭を作る以上は、何人も其妻子を滿足せしめようといふ感情を起す。之には全く例外がない。只斯かる感情の起れる主旨を了解して、之を修養の機會となす人は、必しも多くない。中には、徒らに一時の滿足をのみ求めて、終局の破滅を招く者もある。之等の人は、自らは自我を沒却し、妻子に對しては愛に溺るゝ人である。又中には、眞に妻子を滿足せしむるの困難なるに辟易し、努力奮闘を厭倦するの結果として、一家不和合の悲痛なる境域を脱することの出來ぬ者もある、若し夫れ、自己の家族を愛する所以のみを知つて、之を廣く世間一般に推し及ぼすことを敢てせざる者に至つては、利己主義の甚しきものとして之を擯斥しなければならぬ。

女子教育に對する時代思想の變遷

鈴木文治

▲「女子教育に對する時代思想の變遷」と題しますと、何やら六かしい大論文でも出さうでありますが、決してさういふ野心はなく、唯だ其變遷の有樣に就て、一寸氣づいた個所を申上げて見やうと思ふに過ぎません。

▲此點は疾くに讀者諸君に於てもれ氣づきのことでありませうが、新聞などで見ますと、今年は高等普通を問はず、女學校入學志願者が著しく減少したさうであります。裁縫とか刺繡とか活花とか、凡て技藝に屬する方面に於ては志願者の多きを例とするに、今年は此方面に於ても志願者至つて少く私立學校などでは殆んど立ち行き兼ぬるものすらあるさうです。これは決して看過すべからざる一現象といはねばなりません。

▲此現象は一言に盡すならば、或は過言かも知らんが、明治女子教育の失敗と斷言することが出來やうと思ふ。即ち現代の父兄が今の女子教育に信用を置かなくなつたといふのです。然らば何故信用を置かなくなつたかといふに、これは明

治の「女子教育に關する方針の不定」といふことに歸さうと思ふ。若し所謂「良妻賢母主義」を以て從來の女子教育の方針であつたとすれば、その「良妻賢母主義」の失敗と言へませう。

▲名は「賢母良妻主義」といつても、明治の年間、我國の社會は果して幾許の良妻賢母を供給せられたでせう。如何にも萬事單純であつた古とは違つて、短い年限の間に文學、科學、技藝等一わたりの事を教育せねばならんのであるから、確かに困難は困難でせうが、併し困難なればとて教育家は其教育の不成績の責任を免るゝことは出來ません。

▲女子教育に對する非難もいくらもあります、又非難の敢て當らぬのもあるに相違ありません。例へば舊弊一徹の考から現代の人の心裡の消息に通ぜざる所謂新舊思想の衝突より來るものもあります。併し幾多の非難は皆非難するもの丶過で非難さるべき缺點は果して寸毫もないのでありませうか。私は不幸にして斷じて爾か思ふことは出來ません。

▲私は今玆に其缺點を一々詮索立てする遑はなく、又其必要も認めない。唯一言したいのは其精神教育の一點に就てゞあります。時代の思潮は走馬燈の如く變轉して、昨是今非、紛々として定まるところなし。此點に於て今の女學教育を受けた所謂新時代の婦人は、明確な見識を立てゝ其子女を指導す

るに足る丈けの能方資格を備へて居りませうか。私の疑問は實に是に存するのである。

▲勿論今の世の教育家其人に倫理教育の權威がなく、寧ろこれを排斥しつゝある有様であるから、其教育を受けた婦人に其見識を望むのは無理でもありませうが、併し此見識なくしては到底所謂良妻賢母の本務を全うしたものとはいはれますまい。否、これこそ人の妻たり母たるものゝ根基で、其他のことは寧ろ末技です。

▲一體此方面のことはミッション、スクールなどで勤むべきことゝ思はれるが、今のミッシ、ヨンスクールはたゞ汲々として官公立學校の摸倣を事として、其主眼、其根本を忘れつゝあるの觀あるを免れない。勿論形式的方面の修養はつとめる、併し苟くも人の子の母たるものゝ修養に形式教育何の効があらむ。寧ろこれあるがために一種の精神的畸形兒を產出しつゝあるではないか。況んや日本の習慣風俗歷史の如何なるものかを辨へざる新來の婦人宣教師などの如きに至りては或は以て日本女子の固有の面目を失はしむるものなきにあらず。ミッションスクール又頼むべからずである。

▲此點に於て私は教育當局者の猛省を促さゞるを得ざると共に、世の父兄たるものゝ注意を促さゞるを得ない。見よ、時代の濁流、澎湃として漲り流れて、幾多可憐の犠牲者を波間に葬り去るではありませぬか。日々の新聞の三面は殆んど此記事を以て満ちて居る。心あるもの、默視するに忍ひないところであります。「女子教育の新方針」を確立することは恐らく目下の急務でありませう。私は五人の妹を有つて居るもの平生此點に苦心して居りますので、御參考までにと一言申上げた次第であります。

危險なる事實

横山砂

青春の血の湧きかへる少年少女に、一定の方針もなく、挑發的の文字を勧工場的にならべたてたる此頃の雜誌を濫りに讀ましむるは、危險至極なることにて、子女を持てる父兄の尤も注意すべき事の一なり。殊には口繪に賤業婦の寫眞をかゝげ、中に如何はしき小説をものしたる者など決して手に取らしめざるがよしとは、世の定論なるが、彼の少年少女の手に成れる作文を掲げなぞするは其方法によりては彼等の虛榮心を挑發するの惧のみにてさほどの害ある者には非ずとせられたり。然れ共近頃に至りて其大害あることを見出しぬ。其は我が親戚なる一人の少女が先つ頃或女學雜誌に投じたる作文の其第何等とかに當選したるにより、見もせぬ、知りもせぬ。男より書面を送り、寫眞の交換を求め、或はハンケチを贈りこしなどする者引もきらず、中には日蓮宗大學林にある學生なりと自稱し、いともなまめかしき女もじにて、遊びに來給へ、何處に待ち受けんなど云ひおこしたるもありて、其手紙四十通りにも及びたる事なり。こは余が實見する所にして、決して誇大の言には非ず。かゝる時に其少女若も獨り下宿屋に居たらんには如何に、さらずも其父兄又は監督者が少く緩漫に付したりせば如何に。實に寒心すべきに非ずや。彼の數日前新聞に傳へられたる某と云へる盜賊が田舎にありし少女を誘ひ出して同棲したるも女子文壇の懸賞に當選したるを見て此同じ手段を用ひてなりと云ふ。されば己の作文が雜誌に掲載せられたるが爲に他の誘惑に陷り、己が一生を誤まれる者決して此外に尠からざるべし。男女の交際日に亂れ行く今日 父母たる者の注意すべき事にこそ。

家庭

夫婦の愛情は如何にせば持續すべきか

海老名みや子

旅は道づれ世はなさけ袖振合ふても懷しみを感ずるは優しき人の情である。況や夫婦は一生の道づれ、幾多の荷物も共に負ひ共に荷なひてたすけたすけられつゝ永の旅路をしたならばどんなに嬉しい懷かしいことであらう。さるに世の中はしかある可きものが、さなきが爲におもはぬ涙を見ねばならぬ事が往々ある。夫婦の契は偕老同穴といひながら、又一方にはあはせものは離れものゝ忌はしい諺があるではないか。此頃ある雜誌で夫婦共棲中に來るべき危機と題して、此危機到來の時機は一定しないが、兎に角危機其ものは夫婦の間に殆ど免かれ得ない必然的のものであつて、甚しいのになると夫婦の愛が冷ね切つて氷の樣になつてしまふ。左樣迄でないにしても何だかもの足りない侘しい――繚亂目もあやなる花野から次第〳〵に遠ざかつて、ともすれば落葉の音の寂しい疎林のほとりを彷ひ行くやうな、堪難い氣持が夫婦の間に起て來るものである。共棲生活に於てより多く失望に陷るものは女でなくして男である。然しながら夫れは必ずしも男子が自ら招く罪ではない憫なる男よ！男は失望するやうに造られて居るのだ。牛肉はそれ自ら永久に人に食はれる爲に存在して居るともいへよう。牛肉を好む男は五年十年或は廿年の永きに亘つて夫れを翫賞するかも知れない。それでも如何に巧に料理されて居ても、それ以上には最早や唯の一日も口にすることの出來ないのが男の生理上の性質であるといふ樣な事で、一面大に參考にはなるやうな事も書てあつたが、私共の夫婦觀とはあまりの差で實にいやな氣持がした。兎に角も世にこの例の多い事は疑はれない。が、殘念ながらこれは眞に夫婦の情味を知らない人だと思ふ。然し果して夫婦がこんなものであつたら、世は慘憺たるもので、戀愛の神聖も、スヰートホームも、空の空なるものである。私は夫婦といふ意味をもつと神聖にもつと高潔に解釋する樣にならなければいけないと思ふ。同時に相互に如何なる心得をもつて、永久に樂しき道つれとして行くべきかを能く〳〵研究しなければならないと思ふ。誠に鳴許がましい樣ではあるが年甲斐に聊か自分の實驗した處を記してお若い方々の參考に供したいと思ふ。先づ私は

夫婦は永久にホニームーンを續けらるべきものだ

といふ事をきめて置きたい。かういふと若い方々は銀婚式も過ぎたものがホニームーンだなんてそんな味が覺ねて居られるものか、靑春の血のわきかへる今日此頃の我でこそ初めて其味が分るものなれといつて笑はれるであらうが、人生の興味は春のみだとはいへない、四季折々の面白味は亦必あるものである。火燵は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さんでの昔し語りの樂しさは未だ味ひ得られないが、澄渡る秋の夜の月見の清興は春の花見に劣らぬ樂しみがあるといふ事はたしかに實驗せられる。私共か此世にあるは丁度學校に居る様なもので、片時も學ぶといふ事を忘れてはならない。夫婦はこの人世の學校で學んで行く大切なる道行であつて、男も人の夫となり、女も人の妻となつて、初しめて己れ以外に己れの全き心と身を捧けるといふ貴い實驗をする様になる。況や子といふものが生れて來れば油然として親心か湧て來る。この親心は子供を有たずしてはさとられない「旅人の宿りせん野に霜降らは吾か子はごくめ天の鶴むら」の歌もその母よりして湧て來るではないか。夫婦は唯この世に子孫を産み出すばかりでなく又已れの人格を産み出さねばならないといふ事は片時も忘れてはならない。かくして與へられる場合〳〵に於て、自巳の修養を怠る事がなければ、日に〳〵新らしき夫を見るが如く、又新らしき妻を見るが如く敬愛の念は互に彌增して、十年でも二十年でも更に愉らざる情味を感ずるのことが出來やうとおもふ。更にこれを細かに分ちて

妻が夫に對する態度と其心得

を聊か述て見やう。夫唱へ婦和するといふ事は古めかしい言葉であるが、試に優

さしい美はしい言たと思ふ。これは誠に順序に叶つたことで、年齡からいつても夫は兄妻は妹、學問からいつても夫は師妻は弟子の差がたしかにある。況や其體力に於ては如何に當世の女學生でもベースボールにボートレースに男子と爭ふわけには行くまい。そこで夫唱へ婦和すといふ調子で行くは當然のことである。それなれば妻は夫の唱へる處何もかも御無理御尤で盲從するのであるかといふと、いやそうは行かない。女も理性を備へた人間である。昔しはこの盲從は妻の美德としてたゞへたやうであるが、今の私共から見るとドウモたねられない様な氣がする。それは自分の權利を奪はれて殘念だといふのではなく、夫のいふ處が非である事を知りつゝハイ〳〵といつてるのは夫を欺き、自身を欺いてゐるやうな氣がしてすまなくてたへられないのである。そこでこれはどこまでも夫たる者は大に心を用ひてもらはねばならない。調子つぱづれに歌ひ出されては何分妻が和するとしても、琴瑟を皷する事は出來ない、調子の狂つた琴瑟を皷してはとても妙音を發する事は出來ない。妻は夫の緒琴の樂譜が天の正しき樂譜に叶ふ樣、其調子を整へる事につとめねばならぬ。妻の心なきわざもてしば〳〵夫の情緒をかきみたしては、如何に理性の勝た人でも調子を狂はさないといふことは六ケしかろう。

夫婦の性質は可成異つたのがよい互に其長をもつて短を補ふて行かねばならぬとは普通いふ事であるが、これは一概にそうばかりも云はれない。又夫婦の配合がそううまく行くものでもない。ずい分似寄の夫婦が案外に立派な家庭をつくつて居るではないか。そはとまれかくまれ

妻が夫に對する態度はどこまでも積極的でなければならぬ

ア、又あの氣象でやり過ぎはあるまいか、ア、いふ事は少しひかへ目にしてもらひたいなどゝハラ〳〵して後からひつぱる樣では夫は到底思ひきつた仕事は出來ない。妻が夫を思ふの心は誠に美はしいものであるがこゝはも一歩踏みこしてむしろ夫を信して同情同感にならねばならぬ。これに付ては私にも大分實驗がある。今より十八九年前かの新神學の語は盛んに行はれた。其頃夫は其新神學の主唱者として四方敵を受けた時代がある。これは十年餘も續いた。サア私は心配でたまらない。其時は熱く〳〵思つたア、自分に神學思想の素養があつたなら、幾分夫の助けともなりせめては自分自身の立場を定める事も出來ようにと、只〳〵心配でたまらない。あんな事を云はれては又人の反對を起しはしまいか、あれ程にいはないでもよさそうなものだなどゝ、演說や說敎をきいてるそらはない。すんだあとでも今日のおはなしはこんな所に非常な感動を與へたなどゝいふべき處を、批評的耳で聞てるので其眞意は分らないであれではあんまりだなどゝいひたくなる。夫は嘸いやな氣持であつたらう。しかし幸に私は其態度が甚だ違つて居た事に氣がついた。ア、私は誤つた其學說の如何によつて其人を案じる事はない、若し其品性が學說と共に下つて來たならば、それこそ大變であるが、無論そんな心配はない。むしろ其品格も益々高まつて行くのであれば、自分はどこまでも夫と同情同感になつて、せめては家庭でなりと心ひろやかにあらせねばならぬ。とかう考へて見るとこれまで自分が一門夫を助ける積りでやつた事は、一つも助けとはならずして夫の心を傷める事であつた。それで私は妻が夫の短所を補ふなどゝいふ事は鳴許の沙汰である事を感じた。妻はどこまでも戀愛は盲者なりといふあの心持て火水の中も全心夫を信賴して行くが大切だと考へた。これは夫に與ふる唯一の慰藉であつて又力であらうと思ふ。

小供教育の栞

元良よね子

▲正直は當り前の道

正直の頭に神宿るとかいふ諺がありますが、全く心に一點の噓僞がなければ晴天白日を見るやうで、心はいつも淸々しく平かでございます。それで自然と神に近づき靈の惠を受ることも出來ると思ひます。一體正直といふことは、人の踐むべきあたりまへの道であつて、一歩たりとも此道から外れるなら、電車や汽車が線路から脫れるのと同じ事で、假令轉覆とまでに至らずとも、必ず何か故障の起ることは明白でございます。それだのに世間には此道から脫れて、平氣でゐる

人が少くない様でございます。實に危いことです。此頃新聞紙に何々大疑獄などゝ題した記事が度々見えますが、斯樣な事件の起るのも其本原はといふと、皆此正直といふ一筋の道から脱れたのに外ならぬと思ひます。「其本亂れて末治るものはあらず」と古の聖人が言はれました、又「心正うして後に身修り、身修つて後に家齊ひ、家齊つて後に國治る」とあります。正直な眞面目な清い社會を作り度いと思へば、一家中の些々たることまでよく〳〵心を用ひねばなりません。殊に將來の社會を作るべき小兒の柔い心を誤つた方向に導かぬやう氣をつけることが最も大切だと思ひます。ある人は子供に向つて「決して嘘を吐てはならぬ嘘は盗の初めといふから嘘ほど怖ろしいものはない」などゝいふ口の下から逢ひたくない來客でも見ゑると「只今お留守と申せ」などゝいふて濟して居られます。此樣な場合に子供は如何感じるでせうか。この訓誡は守り、そして此行爲は眞似ないでせうか。決してさうはまゐりません。命令より模範といふことがありますが惡い事は尙ほ更眞似し易いのです。何事に限らず親たちが家の中で致します事は、子供が外に出て何時眞似するかわかりません。のみならず家庭で見習れ聞き習れすることが年と共に發達して、後には社會に現れ出るのです。思へば私共の一擧手

一投足もその責任は軽くないのでございます。

▲嘘は盗と同樣誡めねばならぬ

數年前の事ですが、私方で下婢を探して居りました時ある知人が一人世話して與れました。「田舎者で氣はきかぬが、正直なことは受けあふ、以前自分の家で暫く使つてゐたことがあるが、其間に金錢其他物品の紛失した例はない」との保證でした。とにかく困つて居た際でしたから置きました。ところが成る程品物を盗んだことは一度もありませんけれども、嘘を吐く事は何とも思はない。有りのまゝいふて少しも差支のない事まで何とか違つたことをいうたり、又他の者が言はぬ事を自分で造つて、何誰が彼う言うたとか此ういうたとか申し、嘘が殆ど習慣になつてゐた樣でした。ある時玄關に誰か見えました、軈て此女が取次に出ましたがいつまで經ても何とも言うて參りませんから、呼で今何方か見ゑたのではなかつたかと尋ねますと「なーに變な男でした多分乞食と思ひましたから、今旦那樣も皆樣お留守だと申して返しました」とさも功さうに申すのです。果して乞食かどうかわかりません。主人も呆れて以後此樣なことをせぬやうに言うて附けと申しました。出來るなら此女の惡慣習を

矯めさせたいと種々心配して見ましたが、何分其他にも不都合な事がありましたから暇を遣りました。此は教育もない下女不情の者のことで深く咎めるのも無理かも知れませんが、世間には盗をせぬといふだけを以て正直と見做し、嘘を吐くことなどは罪とも何とも思はぬ人が隨分あるやうです「何でも人は正直でなければいけません正直が何よりです」などゝいひながら、互ひに嘘の吐きあひ、吐いた方も吐かれた方も平氣です。それも下等社會の人たちならまだしもですが、中流又上流の方々の中にもないとは限らぬやうです。甚きは子供の手前も憚らず親子夫婦の間ですら隱しだてや嘘の吐きあひ、其れでは學校の先生が口を酸くして子供に修身のお話をお聞かせになつても、糠に釘で効果を揚ることは甚だ難いことゝ思はれます

▲商品の嘘は是非改めたい

序に今一つ申したいのは商品のことです。外國人との往來交通も頻繁な今日、日本人の心を見られる樣な品は賣て貰ひたくないものです。無論何品も悉く不正直といふのではありませんが、時々は殆滑稽なほど外形を飾りたてた物があります。例へば進物用のれ菓子箱です。舶來品まがひに美麗な畫紙などを表面に粘りつけた紙製のもの、又打底で木製のものもあります。いづれも一見したところ深くて立派ですが、さて蓋を開けてお菓子を一ツ取ると直ぐ樣底か現れ出ます。これは即ち第二の底で第一の底との間に大きな〳〵空所があるのです。それで此空所が何の爲めかといへば無論外形を立派にするためでせう。そして斯樣な品は舶來には無くて和製の品に限るとはなさけないではありませんか。何ういふ人がどういふ考でかやうな物を製造させるのでせう。若し假りに此樣な品物を外國人に贈つたとしたら、先方はどう思ふでせう。如何にも日本人が卑しい心をもつて居ると思ふでせう。ある時私か雜貨店へ買物に行きましたら、店の者が種々品物を見せながら、濟して「へーこれは和製の舶來です」といふのです。何の事かさつぱり解りませんが、大方和製ではあるが舶來品に劣らぬといふ意味かと察せられます。どうか「此品は和製なり」といはれたら、安心して買へるやうありたいものです。何事に限らず一時の體裁を飾らうとする心から動もすると正當の途を脱れるのです。基督の仰せられた「是々否々といへ此より過るは惡なり」といふことを常に記憶て此を實行すれば間違はないのです。

家庭衛生談

金子魁一

種痘の話

昨年の春は大變に天然痘が流行りまして諸所の避病院では醫師の不足を感じ、病人も收容されない程でありまして、北里博士の傳染病研究所では痘苗の製造に忙殺せられた有樣でありました。

一體此の病は世の中の開けると共に、漸々少なくなつて來るので、歐洲の新版の醫書には此病の記載を省いて居るそうであります。昨年我日本に之か流行を見たからといふて日本は未開の國であると

申す理由はありませんけれども、此病とペストなどは、衛生思想の發達してない國に多いさうでありますから、大に耻づべき事であると思ひます。

十八世紀の頃、佛蘭西では年々大約三萬人も天然痘で死に伯林では種々の病死者の十二分の一は此病のためであつたさうであります。支那や、中亞細亞には已にキリスト降誕の前數世紀昔、已に本病が恐れられたのであります。亞米利加では、彼のコロンブスが渡つた以來、屢々流行があつて亞米利加印度人種の滅亡しかけたのも實に天然痘のためでありました。我が日本では歴史の示す所によれば、天平年間の流行を初めと思ふより外ありません。德川氏の治世にも屢々流行ありて多くの人が苦んだのであります。

斯の如く本病は、昔より幾多の人を殺し、親より其愛子を奪ひ、妻より其の夫をとり、大にしては一人種をも滅却した程恐しかつたので、世界各國で多くの學者が、其災害より免れようと工夫したのであります。

一度天然痘に罹つた人は、再び感染することはないといふ事實は、以前より國々に知れ渡つて居つたので、如何しても一生の中に一度は冒さるゝ事ならば輕い病で濟したいといふ考は、すぐに起つて來るものと見ゑまして、自ら進んで人工的に感染したのであります。最も早く此の事に氣がついで實行したのは、支那と印度であります印度の方法は身體に創をつけて、之れに患者よりとりたる膿をすりつけるのでありました。支那に行はれたのは、膿を乾燥さして、之れを鼻孔の中に入るゝか、患者の衣類を借りて著て人工的に感染さすので御座いました。

印度の方法は、大部諸國に弘まりて、中亞細亞から土耳古の方まで傳はりました。丁度千七百十七年の頃コンスタンチンノープルに居つた英國大使モンテーン氏の夫人が其愛兒に此の印度の方法を行つた所が、其結果よかつたので歐洲にも漸々歡迎さるゝ樣になりました。我日本に此の方法の傳つたのは今を去る四百五十年の昔延享甲子の歳長崎で支那人が敎へたのが抑の嚆矢らしいです。

此の方法は大變よい思付きですけれども又危險も少なからずあります。第一、種苗とすべき膿を供給して呉れる病人が結核梅毒の樣な傳染病者であつたら、種痘と同時に之等の病も植ゑる事になるのであります。第二に輕い病人から膿を採りて植ゑても重い天然痘にかゝることも少くないのです。

古來英吉利には牛の天然痘に感染した人は一生涯人の天然痘にもかゝらない、といふ事が云ひ傳はつて居りました。何人も深く研究して見た人はなかつたのであります。千七百九十八年の頃、同國の一外科醫エトワード、ゼンナー氏は種々研究の結果、六月十四日に牛の天然痘の膿を採取してゼームスといふ男に植ゑて好成績を得たのであります。之れが今日世界各國に行はれて居る種痘の起原であります。

今日行はれて居る方法は此のゼンナー氏の法より尚一層進歩したものでありますが、其根底に於ては同一であります。前に述べました通り、人類の大敵であつて、一旦是れに冒かさるゝときは命を失ふか、又幸に治癒りましても醜形は免れないといふ疫病も、恩人ゼンナー氏出でゝ大に其勢を殺がれ現今では傳染病專門に研究してる學者でさへ稀れに見る程に

なりました。今日私共は如何しても氏の功績を忘れてはならぬと思ひます。成吉斯汗は欧亞を征服しナポレオンは全欧を席捲した其事業は歴史上稀れに見る大事件でありますが、今日其の面影を偲ぶ事も出來ますまい。ゼンナー氏に至りては然らず世界人類の大敵を滅して、永遠まで恩恵を與ふるではありませんか、假令此世に於て多くの人々に忘れられても、かゝる人は天國に於て大なる者であると思ひます。

種痘に就て心得べき事

一、初生兒ですと生後百日以上經過して滿一歳にならない中に種痘した方がよいので　時季は春か秋がよいでしよう。

二、そうして一度で善感しなかつたなら、其の年の中に二度も三度もやらなければなりません

三、小供が成長して學齢に達した時、二度目の種痘が必要です。

四、尙天然痘が流行する年には、必ず種痘をしなければなりません

五、凡て病氣にかゝつて居る間は種痘することは避けたいのでありますが

六、一度天然痘にかゝつた人でも、流行時には一度は種痘する方が安全です。事によると再感する恐れあるからであります

七、種痘して貰つたなら、醫師の許しない中は決して入浴してはなりません。掻いたりする人もありますが、以の外の事です。

處女の役目

田村田鶴子譯

一

處女達よ、曇りし日はなんと退屈でありませんか、花のない庭はなんと寂しくありませんか、子供のない家はなんと寂いではありませんか、わけても娘のない家庭は淒寥ではありませんか。實に家庭に於ける娘は、緑の園を装ふ花であり、また朗らかな妙音に人の心を娯ませる鳥の聲でムいます。

娘の役目は、平和と柔順、寛大と犠牲でありますから、常に隣人を慰めるためには、己れを犠牲に供するの覺悟がなければなりません。されば彼女はこの崇高い心の報酬として、世の人に敬愛される様になる魔力を賦へられて居るやうです。

神は、人の家庭の和合を司る爲に、貴重なる役目をば女の手に委託しましたから、この無限の愛の泉は、價なしに誰にても頒たねばならんのでムります。それですから、他人の善は顯して惡は掩はぬやう己れは無理と思ふことがあつても、決して辭色に出さぬよう、又缺乏あらば耐へ忍び、怨には己れを制さねばなりません。いま愛の泉といひましたのは、無邪氣で、僞のなき愛と清き心のことであります。

よしや、世の中の事には不慣でも、平和を保つことに誰れよりも優れてゐます。それで彼女は何人でも抵抗の出來ぬ一種の魔力を持つてゐるのです。

娘よ、地の上に汝の役目ほど美くしきものはありません。もし汝の頭に幸福が宿るなら神に感謝をなさい、もし苦痛があつたら、信仰に依てこれに耐へ、却て汝が忠實もて、他人の苦痛をも分担するばかりでなく、兩親から受けし愛情をもそのまま隣人に施すやうになさい。嗚呼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

汝は家庭を繋ぐ鎖であれ、又慰の聲にてあれ、支へるところの腕であれ、そして汝の行と德に依つて、神の榮を彰すようになさい。

二

試に娘が兩親の側で盡すべき二三の仕事を述べませう。

父上が一日の仕事を終へて、心配さうな顔付で戻られた時に、娘は愛に耀く振舞をもて父の心に安慰を與へます。そして母上と倶にその心持のわるかつた父の物語を聽いて、及ぶだけ同情の中に、新らしき勇氣を鼓吹するのです。

母上いたつきあれば、娘は代つて家事萬端を掌り、暇あれば母の側に侍りて、針仕事などしながら、四方八方のおもしろい御話などしたり、又は慰安と感興に滿ちたる書物を讀んであげます。冬夜爐の團欒には、娘は快活に歷史上の面白い話などをして、皆んなを愉快にさせます又た祖母さんの大好なロマンスや、父上兄上の嗜む壯烈なる國歌をば、ピアノに合して歌つたりします。女性は世の中の軋轢に對して、常にその調和者となるものですから、假令人から無禮の振舞をうけた時でも、いやな感じを持てば持つ程寛裕の胸を廣くして、他人の無理は蔽ひ隱すやうにしなければなりません。

ある年の夏でした。私が友の別莊に夏の休養をいたしました時、その別莊の番人が、密獵者を捕へて主人の處に來て、此の人は不法の行爲があるのに、却て自分を罵詈しましたと訴へたので、主人は大層腹をたて、警察署へ差出すことにきめました。すると夕飯の時になり主人の娘は、いと巧に此密獵者の妻と子供の話をしまして、其妻の貞操勤勉愛情の切なるより小さき家庭がいかにも整つて立派なことを高調しました。始のほどは、父もさ程氣にもとめませんでしたが、終に感動したものと見へて、番人を呼んで、彼の密獵者を警官に渡すことを見合せ、その代りに能々說諭して歸してやれと命じました。其後も他家の牛馬が牧場を荒したとか、隣村の人が山林を盜伐したとかいつて、種々の訴を聽きますが、何時でも、此娘は人を罰するには成る丈輕きに從ふ樣にして居ますので、却て勝利が常にこの友の家にありました。かういう風ですから、此娘を識て居る人は、皆家庭の天の使と呼びました（フランスのとある書より）

人事問答（質問　圓意）

〔問〕私は適當の道があれば娘共に男女交際をやらしてもよい寧ろ必要だと思ひますけれど、さて何程の程度及びどんな方法が適當で厶いませうか。娘は二人で姉は此の春高女を卒業し、妹は只今四年になつた許です。（春子）

〔答〕若餘りの令孃を一人ならず有たせらるる母御樣の御配慮左こそと存じ上げます。男女交際問題は舊い樣で實は活問題、適當の方法をとの思召感佩の至りです。さて今日の處先づ家庭交際、團體交際の外に善き道はありますまい。若い男女同士の自由交際は斷じて許さぬ方が可いのです。

●●●家庭交際とは家庭に於て交際を許す事で親兄弟が素性を知れる男子ならば談話の機會も與へ又時としては家族打集ふて無邪氣な遊びに笑ひ興ずる事あるもよいでしよう、只此所にも注意すべきは開放に過ぎぬ事です、何時にても禮儀を失はぬ樣にするが親の最も注意すべき點であると思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●●●●團體交際とは文學會とか、音樂會とか又は敎會の懇親會とか多數の者が一緒に交際することです。これには異見をさしはさむ人もありませう。併し男女の深き興味を感じ悲情を淸うするに於て團體交際は有力であります。但し意外の迷惑を感ずることのなき樣其仲間の人物には豫じめ注意し置くの必要はあります。要するに父兄は自然の性情を壓服するよりも聖化し、束縛するよりも開導するに努むるが肝要の事と存じます。既に性情の聖化、開導が目的であれば男女交際を以て單に婿撰び嫁取りの機關とのみ思ふは誤りであります。尚令嬢をして一生を托しすべき男子の性格を判定する眼識を有たする樣常に御注意あり度切に望みます。

〔問〕　私は幼少の時から日曜學校へ通ひ只今では薄信ながら、某敎會に屬する一信徒であります。然に今度縁談がありまして、兩親は非常に氣が進んで居りますけれど、私は先方が高等の敎育もあり人品も卑しからず、生計も先づ可成で、將來も確かに有望な方だといふに係らず、信仰の點に於ては一向無頓着且つ飲酒なども構はぬといふ所が、何となく氣に掛りどうしても決心が出來ません。就ては何卒御高見を承り度う厶います。（東京さく子）

〔答〕　今の世の過渡時代には御身の如き經驗ある方鮮なからず眞に同情に堪へません。御兩親が御承諾とあればそを拒絶せらるるもなか〱に苦痛の御事、それに御前が耶蘇だからと二言目には叱責を受けたまう御衷情御推察申上げます。併し同じ信仰はつまり人生の方針を一つにする譯ですから、それで違ふと人知れぬ苦るしみがあつて家庭も面白くなくなる實例決して少なくありません。飲酒の如きも大罪惡に數ふることはないですが、飲まぬことを喜び慣れし身には馬鹿〱しくてたまらぬ思ひが致すのです。そこで信仰に無頓著で飲酒も構はぬ御方であれば御氣の進まぬも最も千萬寧ろ斷乎として御中止ありたし。そが信仰ある人の見識かと存んじます、勿論未信者と絶體に婚姻せぬと云ふこともありませんけれども信は信と合するが永久の幸福であります。御兩親の御立腹も何時か必ず和らがれませう。世には嫁して後良人を導くと容易く決心する人もありますが、それは多くの經驗に於て不成効です願くば惑ひ給はぬことを祈ります。

〔問〕　娘を東京に遊學させたいと思ひ候へど、托すべき知己も無之困り候。何とか安心の行く道は御座なく候や貴誌上にて御敎示被下度御願申上候
（鳥取在その母）

〔答〕　何よりも安心なのは信ずべき家庭に托することですが、それがないとすれば監督の行屆きたる女塾か學校寄宿舍でありませう。近年女學生を世話する女塾のあちらこちらに出來ましたのは眞に祝すべきことで、つまり時勢の要求に迫まられた故でありませう。基督敎女子靑年會の如きも其設備が次第に整ひつつあります。御都合によりては弊社は紹介の勞を喜んで執ります。且又可然學校には大抵寄宿舍の設けがありますから、豫じめ其學校に照會せられて寄宿の事をたしかめて置かるる方得策です。手近き所は必ず御地の信用ある敎師に御相談あり其人の手を通ふして御求めありたし。くれぐれも御注意申すは令嬢の御上京前御宿所定まり居らずば寧ろ御上京を中止されん事なり。かく御注意を仰ぐも他にあらず、今日多數女學生中には或は下宿屋に或は、何ともつかぬ素人の家に寄寓して、だらしなき生活を送りて墮落し行く者尠なからぬ故です。本人の罪は申すに及ばぬ事

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ながら其父兄の無責任も亦極はまれりと云ふべく、げに其子を害ふものではありませんか何卒充分の御注意あらんことを望みます。

家政問答（質問隨意）

〔問〕近頃は燈火用に炊事用に瓦斯をお用ひになる方が日に月に増へますやうですが此文明の利器を利用しないのもすまない樣に考へられますので或る方々の御經驗を伺ひますに其費用の點に於てはたしかに薪炭石油の一割半乃至二割方多くかゝるとの事でございますが確かなる御實驗を伺ひたう御座ります（一家婦）

〔答〕瓦斯使用に就きましては私も御同樣ですい分おひました末先づ燈火の方を一昨年から使用致して居ます。成程費用の點はランプを使ひますより一割五分乃至一割七分多くかゝりますが火力の點に至りては到底較べられません。殊に大勢一室に集つて何かしやうとする時なぞは部屋のすみ〳〵までも公平に照しますので誰も彼もまんべんなく光を受けて誠に快うございます。又ランプ掃除の手數を省くので確かに日に三十分時間の儉約になります。今一つ間接の利益があります。それは經濟思想を家人に養はせる事です。一々使用高がメートルの面にあらはれますので少しでも火を無駄にしない樣に氣を付ける習慣が出來ます。一寸立つにも燈火を暗くするとか無用の時は消すとかこまかい事に注意するやうなります。

炊事用の方は燈火より一年半程後れて使用する事に致しました。一年半燈火の方で經驗して來ました事が大變の益で女中の頭腦にも此經濟思想が養はれて居りました爲少しも火を無用にしない樣に注意致しますせいか薪炭代に七分乃至一割の増額位ですみます。九人の家族で朝夕二度御飯をたきおみおつけから一寸した煮物位皆致しますが二圓内外ですみます。燒ものと二時間も煮るものは炭で致します。時間と手數の省ける點に於きましては想像以上です。殊に女中なしですまそうとおぼしめす方は瓦斯を使用被成ば少しも骨が折れませんで、一日に少くとも一時間勉强時間をつくり出す事が出來ます。序に申上ますが總てとりつけは瓦斯會社で致しますが、器具丈は手前もちです。燈火用ランプは色々ありますが近頃流行の下向瓦斯がよいやうです。多分一個壹圓七八十錢から二圓五十錢位でしやうか。炊事用の方はカマドとコンロで六七圓位かと思ひます。

〔問〕私は近來西洋料理をやつて見やうと思ふのですが、之に使用するテンピには種々あるときゝましたが一番經濟的で前便なのは何れでせう。（まき子）

〔答〕仰の通テンピはいろ〳〵ございますいづれも火がもれる爲に非常に澤山炭を使ひます。私もそれがいやさにめつたにテンピは使用しない事にして居りましたか、近比女子大學て發明されたテンピのはなしをきゝまして、何だかよさそうに思はれましたのでさつて使用して見ました。これはこれ迄あり來りのテンピの不完全な點を改良して、第一火のまわりが大變によく少しも無駄火をつかはずにすむ樣に出來て居ます。並の瀨戶のコンロの上にすつかりはまつて少しも火力を外へ外しません上火も殆となしですむやうです。私は初めてカステラを燒て見ましてもとのテンピのつもりで火を強くしすつかりこがしました大中小とありますが大の方が重寶の樣で、價も普通です。

文苑

花日記（一節）

野口せい子

荒川堤

降りそうなれど、降らでありし、とある日の午後より効外荒川堤の八重櫻見にと、何やらむ物ぐさ多かりし我春には、ふさはしからぬ思ひ立ちにこそ。一行七人皆身一つのすがすがしき出て立ちなるに、われのみは獨り幼兒伴ひし不自由さ、電車が何處へ如何に乘らむも知る人なく、只一昨日より開通せしと云ふ、千住へ至れば其處より船の便ありとのみ、夢の樣な話なり。車掌に敎はり本鄕より淺草へ、淺草より千住へと、やや合點はしつれ、土地柄うとき方角の西も東もわきまへ得ぬ心もとなさ、左らぬ處を終點と聞きつけ、我先きとあわて降れば、否今二つも停留場を過ぎてよりといはれて又這ひ上るなど…………

あわたゞしかかる情ひに花見など
ようもいへたと獨りおかしく

千住は名にのみ聞きし大橋の袂に、乘合船の旗見へて人待顔に鈴ふり鳴したる、引入れらるゝ樣、切符求めて船ばたに至れば三五人町人らしき男子の先客あり、一行七人の婦人連には聊か膽を冷やせし面もちに見ゆ。座を占めて息つく程もなう、船は靜に岸をはなれてすべり出づ。西の方墨色の雲低う去りて、面を吹く風おのづから水をふくむ。

船のゆるぐと共に連れの中、山家育ちのたれかれ、おろおろ顔に胸落ちつかぬ風情、幼くて川に育ち船に遊びし身は、久しう忘れはてゝし昔の夢の今更糸の如く續きて、獨り言ひしれぬ懷しさの情ひにたねず…………

忘るとにあらで忘れし幼き日を
思出に泣く船の上かな

日頃水をたのしみ、船を喜ぶ幼兒にまのあたりの光景、見せまほしく心はやれど、電車を降りて間もなくおちかさんの背に眠りてさめず、今はうつされて母の膝にある無心の姿の神にも似て、流石に夢破る手もいだしかねつ。

幼兒の夢はも載せて我船は
白帆をあげぬ岸をはなれて

遠きはねむり、近きはさめたる白帆のかげに、我も亦書中の人となりつゝ、右の岸にはうら枯れし葦の下萌ね殊に色美

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へ、左の岸なみ木立の嫩芽、折柄降り出でし雨に烟りでさながら夢の如し

下萌ねのあしの若葉は乳吸ふと
小雨にやわき手をばのばしぬ

始めは好奇に笑ひ、さゞめきてもありつれ、雨いよ〳〵强く風さへ加はり、横さまに吹きつくる荒みに、女づれの流石は、あれよこれよ衣服はぬらさじ足袋は下駄はなど、かしましき中に男子つれは、早くも打敷ける莫蓙蓆かつぎ上げて世は太平の様に見へたり。われは眠れる兒をぬらさじとのみ、抱きしめて雨の袂しかと蔽へば、やがて肩のあたり絞る様になりぬ。

うすずみの雲は流れて行く春を
江上三里雨に眠れり

荒川や川上遠く小雨して

夢にも似たり白き帆かげの

覺むるともなく眼開けし兒は、驚きと喜びと一つになりし怪幻なる顔ばせに、背のびしてあたりを見まわし、小さき胸の一時はもつれて言葉もなし、見つめてありし水面を指しあれは水かと云ふ、さなり水の上を舟にて行くなりと敎ふれば

雨を忘れて左右に躍る、小供は天眞爛熳だとむしろの中にも聞ゆ。

やがて足もとあやうく、船頭が樫の如き腕にすがりて、やう〳〵舟を捨てたる頃は、雨一際つよく傘打開く暇もあらばこそ

とある藁屋にかけ込みし姿の、さて如何なりけむ、連れ皆、同じ軒端にぬれ雀のあはれを見せて佇める其さま見るにつけても、兒を負へる丈け一入の我容態を思ひ合せては花にもまさる今日のながめにこそあらむなど雨やどりのひまにも斯る想は絶へず。雨の小止むを待ち、しどろにぬれし若草ふみし

だき、何處ともなき春の野の香を嗅ぎながら、右に折れて二三町畦づたひ櫻の土堤に上り、雨戸引しめたる茶屋を煩はして休息ふ。此あたり右も左も、前も後も見ゆる限りは櫻なれど一重なれば可惜散り果てゝ見るかげもなし、徒らに行く春のあはれを留めて、若葉に煙る雨を泣くのみ、これより十五町も上らでは見頃の八重はあらずと云へば、四時にも近き雨の夕べは、迚も遂げ得べき今日の願ひにもあらずと思ひきりて車を雇ひ、晴間を仕合せに、ほろ揚げさせ、葉櫻の浮かぬ景色をながめつゝ、電車へ歸路を急ぐ、思へばかゝる花見の世に又とあるべしや、かくて我今年の花の日記は忘れ難く思出多き一節を添へぬ。

行く春や花うつろひし堤上を
　　葉櫻一里夢淡きかな、

屋外の半日

小山菊野

今日は風もないよいお天氣である。如何にも外は暖かそうで明るい。家の中に寢て居ると、何だか暗い樣な、冷たい樣な、淋みしい樣な氣がするので、早速庭におり立ち、しばらく使はなかつた籐の寢椅子をおろさせて、椽の前の芝生の上に、松と背の高い石燈籠を影にして、海から來る空氣をよく受得る樣にすわた。そして胸から足の先までケットでおほふて横になつた。

のび〳〵として深い氣息をしながら天をあふげば、久しぶりで晴渡つた四月の青雲、幾月かと思はれる樣に所々白雲の片が浮いて居る。雲は仰向きに見ると一層高く、莊嚴に、活々して、懐しく見ゐるものである。何だか斯うじつと見つめて居ると、雲にでも乘つて居る樣な氣持ちになる。

「お暇で御座います」

と肥つては居るけれど弱いと云ふ、門前のおばさんが來たのである。先づ私に病氣の挨拶などして、椽の日向に仕事し給ふ母上のそばに腰打ちかけお仕事ですか、何を作る、肩は凝らないか、針によく糸が通るかなど言つて居る。母上はまた今日は漁に出たか、波はまだ少し暴い樣だ、風の急に出た時などは内に居てさぞ案ぜられるでせうなど問ふて居られたが、舟の難つた事など一度もないかといはれた時、始めはだまつて何か考へた樣な顔をして居つたおばさん終ひに次のやうな話を仕だした。

「それは夏の事でしたがね、今居れば三十の子を其時十三でなくしました」

とこゝまで言つてあとは話そうともしない。たゞぢつと何か見つめて居る母上はもう針仕事も忘れた樣に熱心にきゝ始めらるゝ。私は今迄目を閉ぢて二人の話を聞て居つたが此時海の何處ともなく遠い〳〵方を見つめて、其海でなくなつたと云ふ子供の話を聞うとふり返つた。おばさんは話しつゝける。

鰹船と云つてもさ程大きくはないが、内の船が少さいのでよそから借りて來ておやじと、其子供と、兄の子と、外一人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、四人して出かけた。其日子供に今日は畠に行くからよせと止めたけれども、何でも行と云つて、船具などは擔げるだけ澤山擔いで、一番先に立つて出掛けた。

其夜一夜は船であかして、其翌日は大方伊豆のあたりまで行つたそうだが、おひ〳〵風になつた。午後には一層風波が増して來たので、一日氣が氣でない、其うち空は曇る。波は山の様になる。そんな時でも其子供は「ちやん寒かろう」と云つて子供は自分のちやん〳〵を父に着せたそうです。波は時々船を越す様になつた。つひに櫓は折れ、櫂もまた折れてしまつた、いくらあせつても今は仕方がない。四人はたゞ陸は見ゑないか船は見ゑないかと、それのみを頼んでおつたが。忽然船は覆へつた。あはれ四人は船によりすがり、波にもぎ取られ、又やつと取つく、又はなるゝと云ふ有様で、幾度か九死の一生を得て居つたが、かくて長時間だれも救ふ者はない。つひに一同は疲れはて、力もつき、互ひ〳〵見失ふ様になつた。其時兄の子供はたとへ死骸なりとも持つて歸らなければ申わけがない、死ぬなら一所とあきらめて、其弱りきつた體をおやぢの腕にしばりつけて、闘ひて居つた。其内ふと船の通るのを見付けた。勿論聲を限りに呼んだがそのまゝ通り過ぎた。又一艘。必死に呼んだ。つひた其船に助けられたのである。けれども助けられたものは、おやぢと、外の者と、兄の子の死骸とであつた。やがて此三つの身體は眞鶴岬におろされた。此後始めて自分に歸つたが、子供の居ないので自分の生きた甲斐もない様に思はれ。大勢の者は火をたき、粥を大きな鍋にて澤山煮て、二人に與へた。二人は非常な勞働のあと、久しぶりの飯、實に何杯でも食べ得ると思つたけれども、只二杯だけ與へられた。又二人はしきりに睡む氣がました。けれどもしつかりしろ〳〵と云つて、決して寢させない。やうやく二一立つて三杯の粥を食させ、三度目には思ふまゝ食させられた。

人の元氣付くのを見て、其夜の中に其船は他の土地に歸つて行つた。二人はむかひの船をよこす様鎌倉に電報を打つて、其濱に一夜を明かした。

其ド こちらでは風の暴くなつたのを案じて、濱に出て舟は見ゑないかと立ちつくした。おひ〳〵夕方になる。他の舟は皆引かへして來た。けれどもそれらしい舟は見へぬ。心配で〳〵他に相談に行きなどして夜に入つたが、やがて電報を見ていよ〳〵驚いた。すぐむかひの舟を出して其返りをまつて居つた。やがて舟は還つて來た。が、子供はつひに歸つて來なかつた。其悲しさ。一時はたゞ打しをれてのみ其日〳〵を送つて居つた。此子の生れた時も海があれて海嘯の様であつたものから、山にのがれなどした。此子は海がすきで舟の出て行かない事は一度もなかつた。やさしい氣だてゝ、常に親を喜ばせて居つた。此子が死んでから度々夢を見るが、ある晩などは人が濱から呼びに來て、今舟が歸つて來て子供が乘つて來たと云ふ。何で死んだものがと云つたが行つて見ろと云ふ何だか急に嬉しくなつて驅けて行つて見たら、ちやん〳〵を着てにこ〳〵しながら舟から下りて來る。あまりの嬉しさに泣こうとしたら起された。あゝ夢であつたかと思つてあたりを見廻したらもう大方夜明であつたが、黒い蝶が頭の上を舞つていつまでも出て行かなかつた。

私は其話を信じて聞て居つた。此田舎の正直なかみさんが何で作り話などしよう。私は此話を聞ながら幾度か涙にむせんだ。母上は勿論はら〳〵落つる涙を拭ひながら聞いて居られた。そして母上は自分も十四になる子供をなくしたと云つてしきりに同情をよせて居られた。私は海を眺めながらひとり考に沈んだ。其子供は何だか海に歸るべき運命を持つて生れたかの様に思はれた。おかみさんは歸つて行つた。私はなほ

思ひつゞけて居た。

下女が熊手を持つて松葉かきに來た。三ケ月程前からやつと歩きだした喜美子も、いつか芝におりて松葉をかくまねなどして居つたが、木影に行つて葉を取つては小さい手で細かくちぎり〳〵して居る。あまりおとなしいので、誰もわざとだまつて居つたが、其様子があまり可愛いので、母上があつとほそい聲をかけられた。喜美子は一寸こちらを見てア……と笑つたが、しさりに顔を働かして木の葉の方を見ては何か云ふ。何を云ふか意味は少しもわからぬか餘程木の葉に興味を持つて居るらしかつたので、非常に面白く感じた。しばらくして皆は濱に行くと云つて出かけられた。私は一人のこつて空想を廻らすに都合よくなつた。

鷄か三羽やつて來た。しきりに木の葉や垣根の隅で虫をつゝき廻つて居る。寢臺の下をくゞつたり、縁先の方に行つたりしたが、急に何かに驚いた樣に急ぎ足で外に出て行く續いて二羽、三羽さ出て行く。其スタイルは西洋婦人の樣であるが、急いで歩く風は如何にも滑稽だ。細い足を鷹揚に歩いて、歩く度に長い首をヒヨコ〳〵さ前につき出す。人があんな歩き方をしたら、如何にも意氣地がなさそうで見つともないであろうさ思つたら吹き出しそうになつた。

足元の所に少さい松三本ある。一本の幹が傘の樣に上に廣がつて上は松葉でおふはれて居る。よくある庭の松だ。これまではそれ程興味はもつて居なかつたが、此頃歐米を廻つて歸つて來られたある美術家が來て、此松を見るさローマを思ひ出す。ローマにはこう云ふ形した大きい木が澤山あります、さ云つたが、此話を聞いてから非常になつかしくなつた。よく〳〵見るさなかく面白い、圖案にもなりそうである。是非面白そうなのを一つていれいに寫生をしておこうなど考へながら、しきりに見つめて居つたが、いつか自分の心は遠くに飛んで行つた。

此大きな木が、天をついて所々に聳ゐて居る。其下には、幅の廣い道路が白く、目立つて、遠くうねつて居る。其時の樣な道を或は馬に、あるは馬車に、あるは歩いて、諸國の旅人が如何にも少さく、然し如何にもはつきりと歩いて行くのが見える、其中には我が知人も見ゐる、女も、男も、美術家や宗教家や商人風の者も見える、一人二人或は一隊をなして動いて行く。あゝ何と懐しい景色であらふ、自分はある小高い丘の谷の緑に萌ゐて居る草の中に寢ころんで、頭にはローマの日光をあびながら、此夢の國を夢見て居た。しばらくは今の自分を全く忘れて居つた。其後此松を見る度に何さなくなつかしい感がする。

海から皆歸つて來られた。空は一面夕日がみなぎつて、白雲は眞綿を引いた樣にやはらかに浮いて居る。松の間から見ゆる小坪の崖は、夕日に燃ゐて居る。頭の上を雲雀がチ、、、と鳴いて過ぎた。木々の頂は夕日して小さな蟲の飛んで居るのもはつきりさ見ゐる。松の木の一番上の所で、四五匹の小さい蟲が、一つになつたり、はなれたり、くる〳〵と廻わり舞つて居る。

あゝ此蟲は、朝に生れ夕べに死する、たゞ一日の命、何さはかない者ではな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いゞ。たゞ一日。何しに生れて來たのだろう。つく〴〵と其短い命を考へて居つたが、長生して八十年、九十年、人間の命が何で此蟲より長いと云はれよう。寧ろもつと〳〵短いではないか、基督の御生涯は三十三年、私には此の蟲の命よりももつと〳〵短かく〳〵感ずる。しかし之れは肉體の此世における生存の長短である、人はたゞ一日でも、一時間の生存でも、永久の命を得る事が出來る。人の生るゝや決して肉體の生れた時ではない、人の死も又肉體の死と同じではない。肉體の死、永遠の命。われ等は常に神に居られねばならぬ。

夕日はいつか空になごりを見せて、海のあなたに沈んで行く。あたりの空氣はしつとりとして、草の香がぷんとする。前の茅葺の屋根の間から烟が薄紫に立ち昇つた。一歩〳〵と今日をのこりおしそうに、たそがれて行く景色、興はつきないが、家の中で母上や喜美子の賑やかに笑つて居るのを見て私も寢椅子から身を起した。（四月初旬鎌倉にて）

順子竹崎先生を憶ふ（その一）

平山訓子

本篇は平山氏が前の熊本女學校長竹崎先生紀念の寄稿に屬するものなれども、故人の面影を傳へて躍如たるものあれば乞ふて茲に掲ぐる事としたり（記者）

覺束なくも記臆の道を辿つて參りますと、私の初めて先生に御目にかゝりましたのは、明治二十七年五月下旬、其四月といふに學校には這入りましたが、當時先生は御上京中とのことで、私共新入生は、先輩の姉君達から二言目三言目には、乾度先生の御噂を聞かされました、で、其先生は一體どんなお方だらうかと、子供心にも私は一日も早く先生の御風貌にお接し申し度いと思ひました。間もなく先生お歸りの報知は校内に傳はり、私共は年丈けたる姉君達に連れられて先生を迎ふる爲め春日停車場へまゐりました、私は子供心にも能く覺へてゐます

其折先生は鼠色地のお召物をお着け遊ばし、輝いた優しいお顏に、莞爾微笑をたゞへながら、阿部歌代姉と、園田納姉を率て、先づ上級の姉君達へ無事をば祝したまうた後、私共新入生に向つて「お〻是が新入の人達かい、あなた方まで、まあ茲まで迎へて下はつて」と仰せられました、私は豫想に反して、先生のお年寄であつたこと、先生ではなくて、優しい、けれどもお元氣のよいお祖母樣であつたことを、一寸不思議に思ひました、先生而かも偉い先生だと申しますと私共には、極めて嚴格い方だと計り映つて居たのでムいますから、先生の先生らしからぬ、餘りに無雜作なお言葉を聞ては實際さう思はざるを得ないのでした。是が先づ先生の初見參の思出でありますが、尙同時に花をつくる一事があります。

夫から三四日ばかり經つた或日の夕暮、私共子供連中は、寄宿舍の前の柳の植つた圓い芝生で、一生懸命○○こんと云ふ遊びをして居ました。私は餘り遊び勞れたので、暫し玄關へ逃れてゐましたが、其處へ先生はお通り懸りになり、莞爾やかに會釋しながら『何うかいもう大分慣れたから歸り度うもないだらうな—成丈け勉強して立派な人にならねばならない、何歳だつたかな、たゝ十二、十二、あなたの樣に幼い時から斯う仕ておると乾度ようなるはい』と仰つしやり、尙芝生の柳を指して『あれ御覽あの柳は私が學校の精神を象つて植ゑといたもの、女はあの柳の樣に、上面は飽迄も優しくなけれ

ばならぬが、まさかの時には又あの柳の様に、強い處もなければならん、分つたかい、よう聞いておきなはりよ」と仰やつて、私の頭を、幾度かお撫で遊ばしたのであります、爾來私は柳を見る度に先生を思ひ、女と云ふものを思ひ女學校の精神なるものを思ひ、不思議にあの柳が戀しく床しいのでムいました。又私は此時から大分先生にお慣れ申し、郷里の戀しさをも忘るゝに至りましたが、當時校內では一番年下な、而もお轉婆な私でしたから惠みの露の甘きに任せ、唯もう無邪氣一偏、先生へ甘ゐては何程お困らせ申したかも知れません。

事餘りに私事に渡りますけれど、私として先生を偲びますには、幼い時の記臆程、花を着けますから私は尙思ひ出の一つ二つを語らせて戴きたいと思ひます。

是も其頃のこと、或時私は虫降しをかけられてゐました。厠に行くのが恐ろしくてたまりませんから、應接間に聖書を

開いて、熱心に讀み入つてゐらしたる先生を驚かし參らせ、恐い時には先生の御出を願ふことにれたのみいたしました、先生は顧みて莞爾遊ばし『おゝ諾々』と仰せられましたから私は安心して參りました、幸に何事もありませんでしたから、幾ら無頓着な私でも、先生を煩らはし申さなかつたことを喜んでまゐりました、處が驚きましたのは、先生はちやんと厠の入口にお立ち遊ばして、私の呼ぶのを待つてゐらしたことであります。私は恐い餘りに先生へお願ひは致しましたものゝ、其恐さを通り越しては何うやらお氣の毒な思ひが獨り手に萌しました矢先、其處にバッたり先生にお出會ひ申して、嬉しいやら、耻かしいやら一切譯が分らず、いきなり先生に抱き付きました、後では是が笑ひ話となつてゐましたが、考へて見ますと、先生は實に先生ではなくて、當時私共子供連れには優しい、力強い、親切な、人なつこい、お祖母樣でムいました。

例令へて申しますと、極めて大きな船にでも乘つた樣なもので、其餘りに廣く大きな爲め船の形が何んなであるか、何處へ向つて行くのであるかも知らず、たゞ、安全に、平和に心たのしく、行くに任せて唄うてゐると云ふ風でもムいましたろう、爾今一つ、先生の何處まで細かに、一人、一人、に御注意遊ばしたかと云ふ事を申しますと。

最も幼なかつた昔のこと、或冬の日の寒い朝、先生は私の部屋に突然ゐらしつて、馴さん行李を見せいと仰しやいます先生にどんな御心がおありなさるかとも知らず、私は只諾いと答へて、仰せの儘に行李を取出して御目にかけました。先生は一々お取出し遊ばして『やつぱり拵へにやならんなし』と獨言ちつつお納めになりました、私は何をなさるかと不思議に思ひましたが、誰方でしたか、其時の室母の方に『餘り寒さうに仕とらすけん、フランネル襦袢を一つ拵へささうと思ひますが、お母さんにさういつてやらして下さい』と仰しやるのでした。で、初めて先生の御心か解せましたが、其後四五日して溫い赤ネルの襦袢は私の身を暖めて吳れる事になりました、そも其襦袢は紀念の爲め保存してゐます、考へて見ますと彼れ程弱かつた私が、尙學校生活を續けることが出來、兎にも角にも今日あるを得ましたのは、偏に先生のおかげで御いました。私は唯感謝にたへません。

尙お話が後前になりますが、ずつと記憶を辿りますと、私共は右の樣な具合で、寒さも、冷たさも辛らさも、悲しさも知らず、先生のお羽ぐゝみの下に、溫められ孵化され、育てられました、が、矢を射る樣な月日は流れて

明治二十八年四月の頃から校内には一種の紛擾を生じ、爲めに校内は二分することゝなり五月上旬、長幼合せて二十名餘の雛鳥は先生を中心として、遂に新屋敷へ別居することゝなり、次で是法、長束氏宅へ移轉し、四ヶ月の間樂しいさすらひを致しました。當時先生の御翅の許に走せ集つて此一團と成つて居られた校友の姉君達は、定めて思出の切實なる、而かも美しいものがあるのでありましよう

思ふに又先生は此時程私共の眼に、明らさまに強い勇將と仰がれ、優しい母君と慕はれ玉うた事はありますまい。私も分らぬながら、此一團の内に入り、新屋敷別居の際は不幸にして一寸他の學校に移されましたが、長束氏宅への移轉後は、再び一團の内に加はりました。苦しかつたのは轉校の間です。私一人流罪にでも逢ひました樣な思が致し、一月ならずして高野邊田に先生を尋ね、最早何んな事がありましても他へは參りませぬ由を申ますと、先生は涙を浮べなから、徐ろに子として親の意に從はぬのは人たる道でないことをお說きになり其内許される機會を待てよと、噛んで含めて、さするが如く、おさとしになりました、私は泣く〳〵歸りは致しましたものゝ、先生の御ふところを離れて、どんな月日が送れませう、間もなく又舞ひ戻ることとなりました。樂しかつたのは――私共に――長束氏別居の折のこと、外部の刺戟の爲めに

内なるものは益々堅く密なる一團と圍められ、先生を目する慈母の如く、年丈けたるを姉と敬ひ、年幼きを妹といつくしみ、燃ゆるが如き修業の念を、熱誠なる先生の信仰と眞摯なる敎師方の訓育とに養はれ、輝ける希望をのぞんで、靜かに機會の見舞ふのを待つたであります、

面白いことは、當時私共の教場が玄關の板敷で、私共は此處にて日本外史の二卷を讀破し、分數比例の大略を習ひました、又或組は階子段を其教場として居られましたかと覺ゐますが、此間に、あつき熱き先生の新篇はきかれました。低く垂たる紛擾の雲は晴れて、照る日の光りはのどけく、平和らけく遂に避暑より先生に率ゐられたる此一團は、再び古巣に舞ひ戻ることゝなりました。爾來外部に於ては、幾數度の雨や嵐が襲ひ來たにも係らず、内部に於ては無事に平和に、今日迄學校の活ける生命は續きましたので厶います、

若し此時にして先生が居らせられなつかたなら、二十名餘の姉妹も、學校の運命も、今はたどうなつて居たかも分りません、先生は實に姉妹の生命、延て學校の生命で御いました。が、不幸にして私は其八月と云ふに心臟を病み、其後二ヶ年が程は、病みては歸り、癒ゑては出て、幾度か出たり入つたり致して居ましが、三十年の避暑後は死んでも好いとて、又三度目に先生の御許に侍する身となりました、其時先生は私を名札掛の許にお連れ遊ばし『これ御らん、斯うして掛けたまゝ待つとつたもね、何うして來ぬことが出來やうかい』と私は感餘つて泣きました、先生の働泣情け深く、僅か一小女の私に泣、斯うもお心をお配り遊ばすのかと思ひますと、實に泣かないでゐられませんでした、而かも先生は凡ての生徒等に是で御いました。殊に病氣の者、悲境の人に對しては、先生の御心の光りは一層遺憾なく發揮されたのであります。

春の雨

田澤藤郎

夕潮の遠音聞ねて播磨路や道の長手を春の雨ふる
春の雨御寺の椽にたわむれし昔は戀し椿こぼるゝ
比叡の峯の杉むら木立くらがりに鶯なきて朝の雨ふる
春雨の合間を出でゝ加茂川にけむる柳の樣ながめゐぬ
里川の流にうちし橋ぐひの柳芽をふき春雨のふる
新よめの祝のむれやなわて道人はまた行く朧月夜を
レバノンの水のほとりに生ふる木の滴りよりも香しき君
淸見潟汐みちくらし冲つ邊に月たゞよひて夕の鐘なる
幾度か思ひ寢に見ん三保が崎富士紫に夜あけぬる日を
雲そめて今落つる日は八重汐の遠鳴る方に沈みゆくかな

由井ケ濱より

白夜生

墨染の衣をまとひ朝な夕な鐘つきあらば悲みうせむ
我もまたかの尊氏の墓のごとむちうたれつゝかく生きてあり
あゝ靜が舞へりし衣のやゝあせて黄朽葉なるを見るが悲しさ
大塔の宮がこもりし洞に入り失せなば人はあはれむらんか
江の島やとゞろ／＼とかの橋を渡りて見なばやゝなぐさまむ
あな今日は富士はも見へず徒らにうすき雲ひく寂しき日かな
青海のつらなる限りひたしたひさすらひ行かむ悲しきまゝに

若葉

藤なみ子

熱き血のもゆる若葉のなげきにてさみだれ降るか雪崩(なだれ)する夜に
人を避けてともにたどりし若葉途花おほかりき夢おほかりき
天上にさゞめく星の睦げのもるゝに似たりおぼろ／＼夜の月
夏の雨白くふるよとほゝゑみておもはれ人は灯影をさくる
悲しみも煩ひもなしと悟顔にとく君さびし春若き日を
我死なば白水仙の花となりて淋しく咲かむ霜さゆる夜に

精神的簡易生活

▲シャル、ワグネルが一度簡易生活を唱ふるや、奢侈虚榮の生活に倦疲れたる歐米の社會は眞に大旱の雲霓を迎ふるが如く之に歡呼せりき。我國の或社會にも一服の淸涼劑は確かに必要也。併も余は精神的簡易生活の萬世に亘りて必要なるを感ず。

▲人生其ものは吾人が決して簡單になし得るものに非ず。只吾か生活は我が遣り方によりて、より簡易に爲すことを得べき也。人生には堪へ難き試煉、困難、悲歎、苦痛、心配のあることは事實にして、之を何人も避け難き所たる也。已に避け難しとならば、何とかして之に耐へ得るの工夫を試みざるべからず。

▲工夫の第一は他なし之等に對して無神經となること也。無神經とは一の習慣なり。習慣は小さき行爲の蓄積によりて成る。故に無神經修養の法は永きに於てせず、短きに於て之を爲すにあり。一日の中半日汝の困難に堪へよ。少くとも數時間之を忍べ。一日の辛棒は翌日の頗ろ安易なるを感ぜしむ。斯くして一日又一日を加へ、遂に習ひ性となる事決して難きに非る也。

▲然共亦我々は時として無用の心配や、贅澤なる煩悶に我と我心を苦しめつゝある也。故に工夫の第二は力めて私心を去り、無用の心配を除くにあり。自分の事に關しては寧ろ成敗共に暢氣になる也。餘計な煩悶をなし、餘計な心配をして居ては到底此の忙しき社會にたち何事をもなすと能はざるのみならず、無用の心配をするよりも吾人は有用の心配をせざるべからざる也。

▲一體人の心は靜平不動に非ず。動かずんば止まざる也。故に無用の心配を去らんとすれば、寧ろ有用の心配に心を働かしむるにしかず。有用の心配とはまづ他のために盡すにあり。他人の爲にといひ乍ら其實自分のため、殊に虛榮心に驅られてなす者少からず。斯の如きは必ず破綻の時至らむ。

（相原生）

講壇

女性の福音

海老名彈正

古の詩人が「弱き者よ汝の名は女なり」と歌ふたが世界をおしなべて女は弱い者であつて聖書に弱き器と云ふたのも矢張身體の嫋々として風にも堪ねぬ様を現はしたに外ならぬ。若し男子を以て剛とすれば女子は柔である。彼は巖巒に聳ゆる喬木の如く、此は垣を賴りの牽牛花の如しである。此の區別は自然に出來たので社會組織や敎育の關係にばかり依るのではない、それならば、強い者は幸であつて弱い者は不幸であるかと云ふに強ちに左樣ではない。柔と弱との尊ばるゝ一面がある。基督が柔和なる者は福なりと仰せられた如く柔能く剛を制する事が出來る。柔和の德は男子にもあるが女子には餘計表はれて居る。從つて女子の精神は智識と意志に作用かずして情に傾く。既に身體もやさしく心もやさしいとすれば女子は何を求むるであらうか。強い者を求むるのである。自分の立つ基礎を求め助手を求むる事は婦人の眞情であつて、東西古今これを欲しない婦人は無い。適當な信賴者を得ると否とは殆んど女子の運命の定まる所である。確實なる人物を得れば幸福となり、然らざれば不遇に泣く憐れの身の上となるのである。けれども唯此處に止るのではない之を救ふ道はある。

然らば救とは何てあるか

基督敎は男女を平等に見て居るか、勿論それもある、けれども婦人の尊む所は敎訓よりも寧ろ人格其物にある。健全にして高潔なる人格こそ實に女子の生命であつて、女子はこれなしには生甲斐が無い。而して基督敎は敎訓の宗敎、戒律の宗敎に非ずして人格の宗敎である。即ちクリストなる人格を本尊として進むのが我々の取る可き道である。初代のクリス

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

チャンの中に數多の婦人があつたが、此等の婦人は救に依て入つたのではなくしてイエスの人格に引きつれられたのである。イエスには女子を引き付ける強い力があつた。これ其神性の發揮ともいふべきであらう。如何にして當代の婦人が彼に歸依したか。誰でも强健なる意志の人、物の分る聰明なる人を欲し無い者はないが、女に於て殊に左樣である。而して初代のクリスチャンの婦人は之をイエスに見出した。けれども彼等にはも一つ欲しいものがある。何か、淚である。剛い所に淚のあるのはこゞしき巖の中から冷水がサツト迸る樣なもので何とも云へない味がある。そこは實に愛だ。聖書記者はラザロの死んだ時のイエスの有樣を記して「彼泣けり」といふて居る。當時イエスの心は無限の同情に打たれて堪えられなかつたものと見える。此一面は女子の容易に近づき得る所で、自分の淚と他人の淚と相觸れて一つとなる所にいふべからざる慰藉の泉を見出すのである。それ故に婦人達は色々の苦心をしてイエスを助け、時あつては自己の財產を拋つて彼の爲に盡したのである。

クリスト教とは何か

ナザレのイエスの福音である。女子の難有思ふのは實にこれが爲で女子が唯一の信頼者となるものはイエス、キリストの外にはない。イエスに對して自己の凡てを捧げた時に、其人は救はれたのであつて、此程婦人に取て幸なものはない。イエスは云うた「凡て疲れたる者、重きを負へるものは我に來れ。」これ實に幾多の女子がイエスの人格に憧憬て彼の跡を慕うた所以である。女子が男子を迎へて家庭を作る事は人生に無くてならぬものであるが、若し結婚する前にクリストに嫁してクリストの智識、意志及び其淸き愛に觸れて、滿足する事が出來るならば、其女子は生涯添ふ可き夫を過らぬ。何故なれば其女子は虛榮心に過まらるゝ事がないからである。獨りクリスチャンばかりではない、苟もクリストに信頼するならば、其人はクリストに似ざる者を選ぶ事は出來ない。然るに多くの婦人はこの信仰が無い爲に行く可き道を過つて悲慘の淵に陷るのである。年々我國の婦人がどれ丈虛榮心の爲に過られて生涯泣きの淚で暮らさねばならぬ運命に落ち行くであらうか。名譽も惡くは無い、金も惡くは無い、けれども其中には種々の誘惑がある事を知らなければならぬ。又中には己の弱きが爲に意志を立て通す事が出來ずして親の爲、兄弟の爲、乃至は友の爲、社會の爲に壓制を受けて方向を過る者もある。婦人は善く仕方がありませんと云つて泣き乍ら之に從ふ、けれども仕方はある、能はざる所なき神を信ずるならば仕方はある。人にこそ能はざれど神には何事も成し得ぬ事はない。若し夫れパウロと共に「クリストに於て成し能はざる

所なし」と云ふ境涯に入るならば千萬人と雖我往かんである。

女子が相當の人を選んで

身も心も捧げて盡す有様は誠に忠實であつて、男子は殆んど顔色なきところである。彼等は夫の生きて居る時ばかりで無く、死んで迄も之に盡す。女子に再婚する者の少くないのは確に其證據である。私は強ち再婚を惡いと云ふのではない、けれども女子は其氣に成れずして終生獨身で滿す。それであるから若し健全なる夫と相携へて進むならば隨分若痛を忍ぶ事が出來るに違ひない。思ふに女子は結婚の如何に深き意味あるものなるかを知つて居る。少くとも日本の女子は知つて居る。而して又人格の中に結び目を見出す事の如何に大切であるかと云ふ事を知つて居る。パウロが「もはや我生くるに非ずクリスト我が中に在つて生くるなり」と云つた言葉の意味は女子の實驗から見れば決して難くはない。即ち婚姻と同時に凡ての物を夫に捧げて一向夫の爲に善かれと祈る女心には獻身犠牲の面影が見ゆるではないか。男子が妻に一身を捧げましたと云つたら笑ふ人が有るかも知れん、けれ共女子が殘る一身は夫に委せますと云ふ時には眞實に高い深い生活となるのである。如斯女子がクリストを夫とすると云ふならば、近代の男子は煙たがるかも知れんが、そんな男は生涯の友とするに足らない。

クリストが女子の福音となり得たものは何か。十字架である。クリストが十字架にかゝられた其苦しみをば女子が子を生む時の苦痛に比して「生みの苦しみ」と仰せられたのは誠に深き意味がある。イエスには妻は無かつたが兄弟も姉妹も有つたのであるから、分娩の如何に大役であるかは御存知であつたと思ふ。其母に同情せられた計りでも分らぬ筈はない。さればこそ此點に於てイエスは世界の女子に無限の同情を拂ふて生血のたら〳〵と滴る十字架の苦痛に迄擬らへ給ふたのである。けれ共十字架は唯泣いて從ふと云ふのではない、そこには勝利の一面がある。クリストは苦中に在つて苦に勝つ事を敎へ給ふた。我が受くる苦痛は罪ではない、不幸ではない、そこにはも少し深い意味が有る。時として此が爲に死ぬる事もある。けれども其は分娩の苦しみのやうなもので、新なる物を生まんが爲である。一の我より更に第二の我を生む爲である。クリストの十字架も此の通りで唯盲目滅法に死んだのではない、多く人の苦を我身一つに引き受けて死なれたのである。犠牲と成られたのである。

婦人の一生犠牲多し

夫の爲に、子の爲に女子が苦しむ事は一通りではない。中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

には一人を背に一人を懐にして其でも足らずに一人の手を執つて其日〳〵を送る者さへある。そんな人は上中流にはあるまいが、貧しき生活をする者の中には決して稀しくはない。兎に角一方に夫に仕へ乍ら一方に三人、四人の子を育てるのは並大抵の事ではない。私が幼かつた折、母や伯母などが女の苦しき事を語り合ふのを用いて、小供心にも女たらざる事を幸としたが、今日にして思へば其苦の中に意義のある事が分らなかつたのである。子供の爲に着る事も食ふ事も碌々出來ずに暮らすのは情ないやうであるが、クリストの十字架上の御言葉を聞けば慰むる事が出來る。クリストは何と云つたか、我一人之を爲すに非ず神我と共に在り。この聲である。悲む時も喜ぶ時も自分一人でない神樣も共に入らしやるのだと思へば、有ゆる辛苦は我を研く試金石である。否クリストと共に復活する事が出來る。女子が其子の神々しく育つた時に、老の將に至るを知らずして喜ぶ有樣はクリストの生活を繰り返すのであると云つても過言ではないのである。讃美歌二百四十九番の

主よみもとに近つかん

なる名吟はサラ、アダムスの歌つた所であるが、此歌を出す迄の道筋は更に面白い。此人の父は文學者であつたが、或時ロビンソンが毎夜寢る前に聖書の一句を暗誦して七年に至れば、よし其人は盲目になつても聖書を見る事が出來るからといつた話を聞いて非常に感じた結果、之を七歳と九歳になる二人の娘に試みて「お早う父樣」と云つて挨拶をする際に、きつと昨晩敎へた聖句を尋ねた。斯くして成長する中に清い思想が養はれて姉は詩人となり、妹は音樂家となつたが其妹こそ實にサラ、アダムス其人であつたのである。皆さんはどうかサラ、アダムスと共に「主よみもとに近づかん」の歌を心に銘じて、憂さも悲みも神に至る道程であるとして常に進まるゝやう切望する。

悲慘な事ではあるが終に臨んで猶一つの例を擧げたい、それは外でもない、詩人バイロンの妻の事である。彼女はバイロンと結婚して一年立つか立たぬに、遂に破鏡の悲を見るに至つた。文壇の明星と謠はれた天下の英才に嫁しながら、永くつれ添ふ事も出來ずに、一人の子を抱いて歸らなければならなかつた彼の女の心中は誠に察す可きである。けれども彼女は夫の無情を怨まないのみか、却つて祝福を祈つた。そればかりか、遂には其可憐の一人子をさへ失ふに至つたが、彼女は泣きつゝも神に御心に委せ給へと祈つたと云ふ、何たる清い心であらう。何たる美はしい心であらう。

翻て日本婦人の情態を見れば、その前にあるものは美はしいこと、光榮なことばかりでない。悲しみもある。暗黒もある。けれども神を信じて疑はず、クリストと結びて離れないならば、其の生涯は幸福なるものなること、又疑ふの餘地はないのである。

隨感

我門出

福井野菊

此度の我身の變化は決して小なるものでは有りません。昨日迄は何をするにも、先生を賴り友を力にして世の中からは全く離れた別天地に、單純な一筋道を辿つて居たのが、今日からは賴る人もなく、力にする人もなく、而も複雜な社會にとび出して賴られる身の上となつたので厶います。自分一人を修めて行く事さへ覺束ないものでありながら、人の先に立たねばならぬ事になりました、此重い荷物を擔ぎされませうか……之を思つては空恐しくならないでは居られませんでした。けれど私は思ひかへしました、假令複雜な社會であらうとも、取るべき道は唯一つしかありません、我が進むべき道は明なので厶います、何として賴りとする處がないと云ひませう、私には實に心丈夫なたより、凡てをた任せする事の出來る神様があります、基督様があります假令住みなれた都をあとにし、故郷を離れて他郷にさすらひの身とならうとも、また、我を導き給ひし先生や、われを慰めわれを誡められた友と袂を分ち、我を愛し我も愛する父母兄弟に別れて、一人旅に出様とも、われは常に神様と共に在るのです、基督様と共に在るのです、斯く思ひ至れば少しも心細い事はない、心淋しい事はない、常に神と基督とに賴りたのんで力を得、わが進むべき正しき道を樂み、わが爲すべき處をつとめて行くならば、決して恐しい事もない、苦しい事もないと、思ひ返して私は潔ぎよく門出いたしました。眞實に神様を知り基督様を知る身の幸福を今更の樣に、つく〴〵感ずるのでございます。

斯くて私は大なる使命を果すべく、愈々限りも知られぬ世の大海に乗り出しました。落着く處は北陸のかたほとり、來て見れば思つた程嫌な處ではありませぬ。日も照れば月影もさす、何處も同じ春は春、花も咲けば鳥も歌ふ、のどかな陽氣な里では厶います。入つて　淳朴なる少女を對手に我も人も共に淸からん事をつとめ、出でゝは氣高き雲の白山を仰ぎ淸き足羽の流れに臨んで、自然の妙趣を味ひ、偉大なる神の力を思ひ、限りなき恩惠を感謝しつゝ心細いとも心淋しいとも思はず、不平も無ければ悲觀もなく、日々をつとめて樂しく忙しく暮して行くので厶います。（節約）

天才と結婚

鈴木生

●天才は結婚をすべきものであるか、すまじきものであるかこれは中々重大な問題であります、併し若し一言に答ふるならば、まづ「すべからず」と私は言いたいと思ひます。

●何故であるか、私には天才の發揮と家庭生活とは兩立し難きものと思はれるからです。(絕對に兩立せずとは斷言せず)男子は別としまして婦人に於ては殊に然ること〻思はれます。近頃も音樂界の才媛の離婚沙汰があつたやうですが、私は天才には兎角か〻ることがありがちの事と思はれます。

●元來天才は社會の公有物、共有者であるのに、家庭の生活は純私的生活であります。天才は私すべきものでない、天才の爲めにこれを善用せざるべからず、これ天才の使命であります。然るに妻にありては家庭は其領國、妻としての主なる生活は家庭にあるのであります。然るに天才の發揮、天才の善用には社會を主とせむざべからず、社會を家とせざるべからず、私の兩立し難いとするのは則ち此謂であります。

●勿論併し乍ら其天才にして天才に嫁し、同趣味、同情操に於て同業者の爲めに手を携へて從ふといふならば、これ實に天才の慶事、其人々に取りても社會に取りても、爲めに得るところ大にして失ふところなきは論なきことであります。併し世の中は決してかく注文通りに行くものではありません。若し人の妻たるものにして天才たるが故に、家を外にして出歩くといふといふが如きに至つては、其配偶者に取りて不快たり損失たるのみならず、其婦人は家庭生活の蹂躙者であると申さねばなりますまい。

●是に於て乎私は敢ていふ、天才ある婦人は原則として結婚すべからず、若し結婚せんとならば先づよろしく其愛する夫のために其天才を抛つの覺悟を以てすべしと。これ家庭生活を圓滿にする所以にして、兼ねて妻たるもの〻本務を全うする所以である。

●抑も家庭といふものは浮氣で持つべきものではない。結婚といふものは快樂本位でなすべきものではない。家庭の生活は一面に於て快樂です、さり乍ら一面に於て苦痛です。家庭生活は則ち社會生活、國家生活の基礎たるもの、已に家庭生活に入れる以上は、個人生活時代に比して其責任や重且つ大を加ふるものである。況んや子女敎養の責任あることをや。

●是れを之れ思はずして、天才たるが故に、若くは天才たるを自負するが故に、人の妻たり人の母たるものが家を家とも思はずして恣ま〻な行動をするといふ風であつたなら、天才は實に厄介なものであります。(節約)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彙報

●將校婦人會教養所　四谷大番町なる陸海軍婦人會附屬の同會に收容せる十七名の戰死者の遺子は歩兵少尉石塚繁一郎氏の教養の下に模範弧兒院と迄稱せられ居るが、其學業の成績何れも中以上にて、此中の三名の如きは其入學々校に於て優等の成績を得たりと云ふ。

●米國婦人日本人と結婚す　米國加州コーチス市のエキスコパル教會の監督牧師エメリー氏方にありて勉強し居たる日本人青木軍太郎氏は同牧師の愛孃と懇親を結び、遂に其母の承諾を得て結婚を約せり。然るに牧師は無情にも加州法律を楯として之を峻拒し、且青木を無賴漢として放逐するに至れり。愛孃は青木の後を追うてシヤトルに至り、去三月二十七日同市の教會にて結婚式を擧げたりと云ふ。

●跡見花蹊女史の古稀　閨秀教育家及び書畫の大家として名高き跡見女史は本年七十歳の高齡に達したるを以て古稀祝賀會を來五月九日日本橋倶樂部に開く由。當日は紳士貴婦人の來會者頗る多かるべしと。

●內親王の御慶事　周宮房子內親王殿下は北白川宮成久王殿下と御結婚御治定あらせられしを以て、四月二十九日に其御式を擧げさせ給へり。其模樣姉宮殿下の時と大差なかりし由承る。竹の園生の愈榮ゐに榮ゐまさんことを祈奉る。

●ペラーン夫人の來遊　佛國極東艦隊司令官ペラーン提督の夫人は四月二十日に橫濱に上陸約二週間オリエンタルホテルに滯在の由。

●女子基督教寄宿舍　女子の良寄宿なきは世人の一般に不便を感じたる所なりしが、此頃小石川安藤坂に見出しの如き寄宿舍を設け、田舍出の女學生を收容し之を保護すると同時に基督の福音を傳ゐんとの目的の由。益々發展せんことを望むや切なり

編輯便り

▲本號には浮田博士、安部磯雄氏、栗原基氏等の寄稿を掲載致すべく豫告致しましたが、浮田博士は旅行中、安部、栗原の兩氏は繁忙にて本號に間に合はず、爲に遺憾ながら六月號に廻はしました。御諒察を願ひます。▲次號の投書〆切は五月十五日です(問答欄は同十日)何卒事務所宛にて御送りを願ひます。

本誌定價　一部金拾錢(郵稅ナシ)◎六部半年分前金六十錢(郵稅ナシ)◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢(郵稅ナシ)

外國行定價　壹部金拾四錢(郵稅ナシ)◎半年分前金八拾錢(郵稅ナシ)一ヶ年分前金壹圓六拾錢(郵稅ナシ)

廣告料

一行廿七字詰	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
內表紙十二圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座に依らざる御送金は總て小石川區竹早町郵便局宛

●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛に願上候

東京小石川區久堅町八番地

新人社事務所

(振替貯金口座一四〇〇五)

明治四十二年四月二十八日印刷
明治四十二年五月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正

印刷人　東京市小石川區久堅町八番地　野口末彥

發行所　東京府下北豐島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社

印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主治　五疳　驚風　痰咳　瘧疾　胸腹痛

効能　鮮熱　感冒　泄腹　中暑

小兒藥王

天子丸

定價

五丸入	金五錢
十一丸入	金拾錢
廿三丸入	金廿錢
六十丸入	金五拾錢

東京神田區新石町十八番地

本家調合所

濟世堂　齋藤藥館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都御染物

本檳榔子黑

江戸褄模様類

新柄小紋色々

東京小石川上富坂二三
コーツ邸内

京屋　佐藤松治郎

御一報次第直ちに参上可仕候

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社告

本郷教壇

第四

印刷中

定價一冊卅錢 郵税四錢

目次

○英文 明治四十一年七月英國エヂンバラ市組合教會世界大會に於ける講演

○英文 同年十一月米國アメリカンボールド年會に於ける講演

○獨逸及歐大陸に於ける精神界の問題

○英國自治教會 使命

○米國精神界の大問題

○吾國精神界の將來

右は海老名牧師歐米漫遊の土産にして三月中旬發行之筈なりも同師繁劇忙殺の爲め原稿校閲の暇なく已むを得ず發行延引する事となれり

社告

弊社雜誌は「新人」「新女界」とも前金にて御購讀願上度前金切の御方は申すに及ばず新に購讀せらるゝ諸賢は必ず前金御送附被下度候。なは振替貯金口座によりて御送金の御方は手數料の二錢御忘れなく御加へ置被下度願奉候也

「新人」及び「新女界」大賣捌所

東京神田裏神保町	東京堂
東京神田駿河臺紅梅町	中庸堂
東京京橋尾張町	警醒社
東京京橋尾張町	東海堂
東京神田	勉強堂
東京本郷	日本堂
大阪市心齋橋筋南久太郎町	福音社
神戸市北長狹町通六丁目	福音舍
京都三條寺町	聖書房
岡山磨屋町	眞書院
仙臺市南通	勞働會
米國桑港	文明堂
韓國京城	日韓書房

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金、午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診火、木、午前、入院診斷後隨時應需、

松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）

電話茅ヶ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後○同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

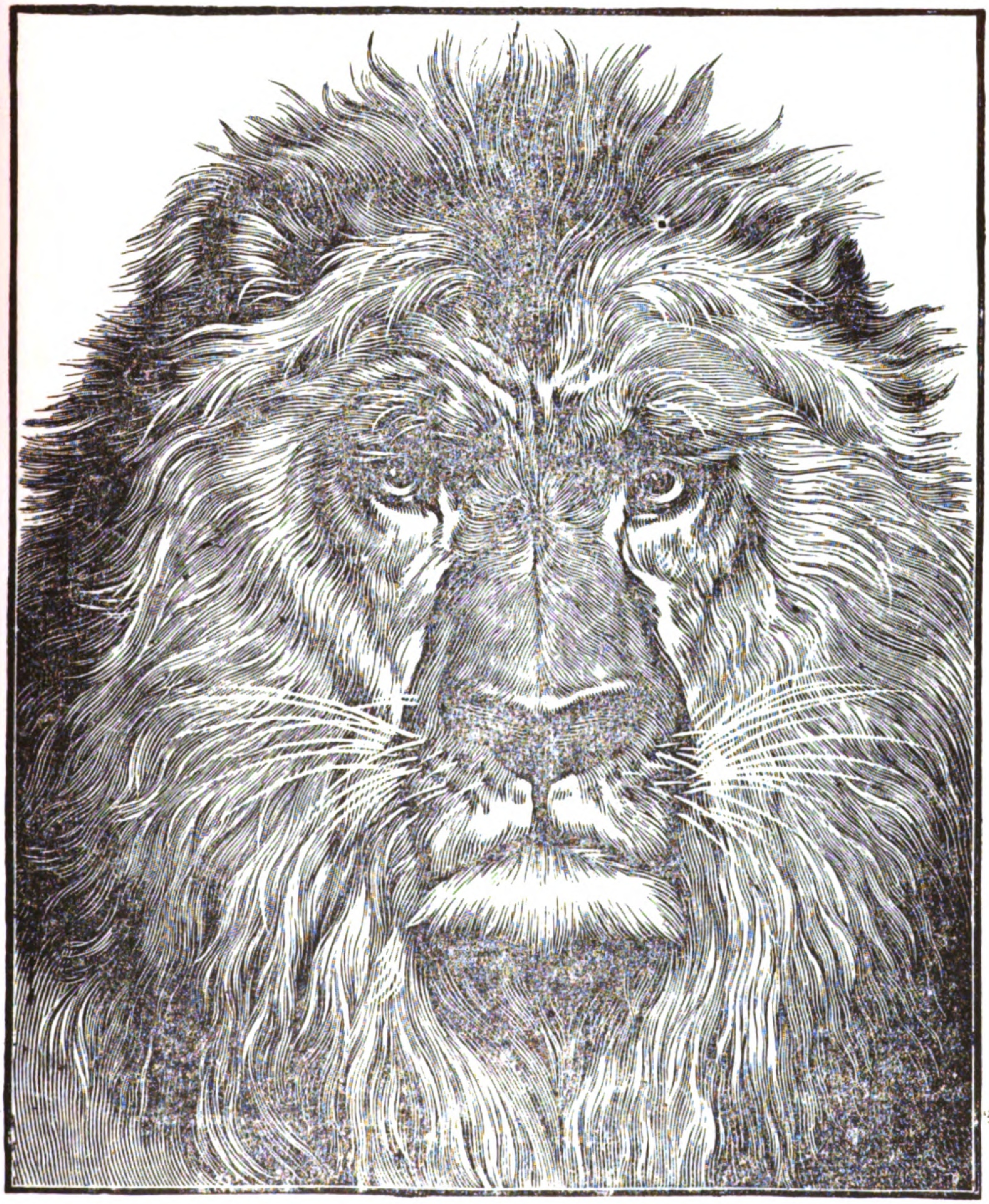
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

ライオン歯磨

毎月一回一日發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可



發賣元　東京市神田柳原川岸　小林富次郎

明治四十二年五月一日發行第壹卷第貳號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN